

2023 年度
(令和 5 年度)

聖泉大学看護学部
年次報告書

領域・委員会

目次

1. 領域活動報告

1-1	基礎看護学領域	1
1-2	成人看護学領域	3
1-3	老年看護学領域	5
1-4	母性看護学領域	7
1-5	小児看護学領域	9
1-6	精神看護学領域	11
1-7	公衆衛生看護学領域	13
1-8	地域・在宅看護学領域	15

2. 委員会活動報告

2-1	教務委員会	17
2-2	学生委員会	19
2-3	国家試験対策委員会	21
2-4	実習調整委員会	23
2-5	FD委員会	25
2-6	学術誌編集委員会	27
2-7	広報委員会	29
2-8	キャリアアップセンター委員会・研究促進	31
2-8-1	キャリアアップセンター委員会	31
2-8-2	研究促進	33

1. 領域活動報告

1-1 基礎看護学領域

1. 構成メンバー 西山ゆかり教授、小林菜穂子准教授、高島留美講師、川端愛野講師
岸田璃子助手

2. 教育活動

- 1年:「基礎看護論」、「看護理論導入」、「生活援助論Ⅰ」、「生活援助論Ⅱ」、「看護導入実習」の授業・演習・実習を担当した。また90名のクラスのため演習では、学生個々の指導ができるように2クラスに分けて運営をおこなった。看護導入実習は、各領域の教員と協働して、成人看護学領域と基礎看護学領域が主となり6月に1週間実施した。
- 2年:前期に「看護過程とヘルスアセスメント」の講義・演習で学修したことを実践する、対象理解とアセスメント実習である、新カリキュラムでの初めてのペアでの「基礎看護学実習Ⅰ」を行った。後期には、前期で学修した内容を踏まえて、「看護過程論」では、アセスメントから看護計画を立案し、実施は4年生に模擬患者役となってスチューデントアシスタント(SA)として複合演習に参加してもらい、2月にある「基礎看護学実習Ⅱ」の準備状況を調べた。「生活援助論Ⅲ」では、治療的な看護援助を中心とし講義・演習をおこなった。「基礎看護学実習Ⅱ」については、全員が臨地7日と学内3日のトータル10日間で、1~2名の受け持ち患者の看護の展開を行うことができた。
- 3-4年:「地域統合実習」は、複数受け持ち患者の多重課題に取り組み、優先順位の決定、看護の実践、チーム医療における看護師長・看護リーダー・メンバーの役割について学ぶ事ができた。また、最終のまとめでは、近江八幡市立総合医療センターの看護部・各病棟とZoomでつなぎ、意見交換をおこなった。「卒業研究」は、各自が興味のあるテーマに取り組み、全員が研究の発表を行うことができた。
- 国家試験対策については、4~12月まで、週1~2回ゼミでの学習会を行った。
- その他の必修科目である「家族論」、「基礎看護論Ⅱ(看護管理)」、「キャリア教育Ⅰ~Ⅳ」、「フレッシュゼミ」、選択科目「リラクセーション看護論」についても各教員が担当した。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 川嶋みどり, 茂野香おる, 大宮裕子, 内山孝子, 川上貴子, 西山ゆかり: 自然治癒力を高める看護の力, 日本統合医療学会誌, 16巻1号, 16-24, 2023.
- 2) 仙波ゆうき, 西山ゆかり, 小林菜穂子, 城ヶ端初子: スタッフ看護師が実施指導者へ実践している新人看護師育成における教育的サポート, 聖泉看護学研究, Vol.13, 23-32, 2024.
- 3) 永山夕水, 西山ゆかり, 小林菜穂子, 城ヶ端初子: 乳がん認定医看護師が初期治療を選択する高齢患者と家族に行う意思決定支援, 聖泉看護学研究, Vol.13, 33-42, 2024.
- 4) 高島留美, 西山ゆかり: 病棟看護師長によるスタッフ看護師への実習指導に関する支援の実践, 聖泉看護学研究, Vol.13, 13-22, 2024.
- 5) 岸本沙希, 桶河華代, 高島留美, 後藤直樹, 城ヶ端初子: ナイチンゲールの看護思想を実践に活かすための研究会活動と課題ーナイチンゲール看護研究会・滋賀の8年間の歩みー, 聖泉看護学研究, Vol.13, 77-81, 2024.

<著書>

- 1) 桶河華代・高島留美編著: 令和5年4月~令和6年3月城ヶ端初子先生とともにほぐくむナイチンゲールの看護思想, サンライズ出版, 2024.

<学会発表・シンポジウム>

- 1) 小林菜穂子, 平岡齋士, 都竹茂樹, 井内伸栄, 西山ゆかり, 戸田真志: 遠隔看護コミュニケーションスキルの獲得を目指した看護学生用の学習教材の提案, 日本教育工学会 2023 年秋季全国大会, 2023.
- 2) 高島留美, 西山ゆかり: スタッフ看護師の実習指導で体験した困難感, 2023 年度聖泉大学看護フォーラム, 口演発表.
- 3) 岸田璃子, 川嶋元子: 中小規模病院に勤務する中堅看護師の倫理的行動に影響する要因の検討, 日本看護研究学会第 49 回学術集会, 2023.
- 4) 仙波ゆうき, 西山ゆかり, 小林菜穂子: スタッフ看護師が実地指導者への支援体験かた捉えた教育的サポート, 日本看護研究学会第 49 回学術集会, 2023.
- 5) 永山夕水, 西山ゆかり, 小林菜穂子: 乳がん看護認定看護師が初期治療を選択する高齢患者と家族に行う意思決定支援, 日本看護研究学会第 49 回学術集会, 2023.

<助成金による研究活動>

- 1) 西山ゆかり, 木村知子, 川嶋元子, 安孫子尚子, 中島真由美, 流郷千幸, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C), 2021-2024 年度.
- 2) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 井内伸栄, 平岡齋士, 都竹茂樹, 戸田真志: 遠隔看護を見据えた看護学生のコミュニケーション能力を高める教育方法の開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C), 2021-2024 年度.
- 3) 記村聡子, 西山ゆかり, 蓮行, 宮下佳代子, 中村陽子: 看護系大学教員を対象としたコミュニティ研修プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C), 2020-2023 年度.
- 4) 高島留美, 後藤直樹, 岸本沙希: 2023 びわ湖東北部地域連携協議会推進事業, びわ湖東北部地域における質の高い看護の実践と人材の育成 ～ナイチンゲール看護思想に学ぶ～

4. 地域貢献活動

- 1) 西山ゆかり
 - ・彦根市立病院地域医療連携委員 (2021 年～2024 年 3 月)
 - ・キャリアアップ講座「研究方法の方法と進め方」講師 (2023 年 5 月 26 日)
 - ・近江八幡市立総合医療センター「臨地実習支援: 心に残る実習を体験させるために」講師 (2023 年 8 月 29 日)
 - ・「2023 イナフェス」に参加: 聖泉大学学生と健康チェックをする (2023 年 11 月 4 日)
- 2) 小林菜穂子
 - ・秋の全国交通安全運動に係る立番 (2023 年 9 月 25 日)
 - ・近江兄弟社高校「みらい探究」講師 (2023 年 10 月 18 日)
- 3) 高島留美
 - ・キャリアアップ講座「文献クリティーク」講師 (2023 年 5 月 26 日)
 - ・ナイチンゲール看護研究会・滋賀 (代表)
 - ・看護協会主催 看護の魅力配達事業講師 河瀬高等学校
- 4) 川端愛野
 - ・乳がんピンクリボンの帽子づくりワークショップに参加 (2023 年 10 月 23 日)

1-2 成人看護学領域

1. 構成メンバー

中島真由美教授、古川智恵教授、馬場好恵講師、岸本沙希助教、後藤直樹助教

2. 教育活動

1年：「成人看護論」成人看護学の基盤となる事項(発達課題、生活の特徴、職業と疾患、経過別の特徴と看護等)について、事前・事後の学習課題を活用し理解を深めた。

「看護導入実習」入学 3 か月目に病院で行われている看護活動を見学し、病院の機能、環境や看護の役割について学ぶ実習を行い、学生は看護を学ぶ上での基礎となる経験となった。

2年：「成人看護援助論Ⅰ」周術期およびクリティカルケア状態にある患者と家族の看護について講義と演習を組み合わせた授業を行った。演習では、術直後の観察や術後ベッドの作成、ME 機器の取り扱いなどシミュレーション演習を行い、学びを深めた。

「成人看護援助論Ⅱ」肝臓がんの手術を受ける患者の事例を用いて周術期の看護展開を行った。演習では、グループワークやアクティブラーニングを取り入れ、能動的学習ができた。一方で、看護過程の科目を履修中であり、看護過程の展開は基礎的な確認にとどまった。

「成人看護援助論Ⅲ」慢性的な健康問題を持つ対象を理解するための基本的な考え方を理解する為、講義と演習を行った。事例に基づいたレポート課題を課し学びを深めた。

「リハビリテーション看護」病気や事故により機能障害をもちながら生活することを余儀なくされた患者とその家族の身体・心理・社会的側面を捉え、リハビリテーション期の看護について学びを深めた。演習では機能障害のある生活の工夫を体験し、学修を深めた。

3年：「成人看護技術論Ⅲ」2 事例をもとに実習を見据え PBL を行った。慢性期は 2 型糖尿病患者の事例を通して看護過程の展開を行った。急性期は胃がん患者の周術期の看護過程を展開した。リフレクションを活用し、授業時間外に質問を受ける機会を設定するなど支援した。

「ターミナルケア論」人生の終末にある対象を全人的に理解し、看護を考えることを目標として講義を行った。各学生が自分自身で考えを深めることを重視しレポート課題を課した。

「成人看護学実習(急性期)」臨地での実習を予定通り行った。生命の危機的状況から回復期に移行する患者を 1~2 名受け持ち、その患者と家族に対しての看護を学修した。

「成人看護学実習(慢性期)」臨地での実習を予定通り行った。慢性疾患を持つ患者を 1~2 名受け持ち、学内で振り返る時間を持つことで実施した看護の意味を考えた。

4年：「卒業研究」、「地域統合実習」、「看護師国家試験対策」

ゼミ生 14 名に対し、看護師国家試験対策として夏季週 1 回の勉強会を開催した。地域統合実習では、各自のテーマに沿って臨地で学びを深めた。卒業研究においては学生個々のテーマに沿った研究指導を行い、卒業研究計画書の作成を目指して個別的な教育指導を行った。

3. 研究活動

<論文>

1) 古川智恵, 森京子. (2023) : 訪問看護師の在宅がん終末期療養者への栄養サポートを实践するうえでの困難, 日本健康学会誌, 89(4), 111-120.

2) 馬場好恵, 古川智恵. (2024) : クリティカルケア領域に配属された新人看護師が抱える困難に関する文献検討, 聖泉看護学研究, 13, 43-53.

3) 岸本沙希, 桶河華代, 高島留美, 後藤直樹, 城ヶ端初子. (2024) : ナイチンゲールの看護思想を实践に活かすための研究会活動と課題—ナイチンゲール看護研究会・滋賀の 8 年間の歩み—, 聖泉

看護学研究, 13, 77-81.

- 4) 植西和美, 中島真由美, 平田美紀. (2024): 脳梗塞患者の再発予防指導に自己目標を設定した退院後の実態調査～聞き取り調査を通して見えた患者の再発予防行動の変化～, 聖泉看護学研究, 13, 55-64.

<著書>

- 1) 樋河華代, 高島留美編著, 岸本沙希(第1部4, 第2部3), 後藤直樹(第1部3, 第2部1)他: 城ヶ端初子先生と共にはぐくむナイチンゲールの看護思想—「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の学びと歩み—, サンライズ出版, 2024.

<学会発表>

- 1) 中島真由美. (2023): 外来通院する働く世代のがん患者への看護に関する研究, 第5回看護実践研究学会学術集会(岐阜県立看護大学, 岐阜).
- 2) 古川智恵. (2023): 意思疎通が難しいがん終末期にある在留外国人療養者に対して訪問看護師が抱える困難. 日本在宅医療連合学会大会(朱鷺メッセ, 新潟).
- 3) 馬場好恵, 古川智恵. (2023): ICUに配属された新人看護師が抱える困難に関する文献検討, 第43回日本看護科学学会学術集会, 抄録集 327.

<助成金による研究活動>

- 1) 中島真由美: 外来通院する働く世代のがん進行がん患者の人生の最終段階の療養支援プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(課題番号 23K16428). 2023-2026.
- 2) 古川智恵: ラオスにおける周術期看護モデルの開発とその評価. 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), 課題番号 20K19227. 2020-04-01 -2024-03-31
- 3) 馬場好恵: 2023年度聖泉大学看護学部研究助成, ICUに勤務する卒後2年目の看護師が抱える職務遂行上の困難
- 4) 岸本沙希: 2023年度聖泉大学看護学部研究助成, 経皮的冠動脈インターベンション治療中の患者に対するIVR看護師における心理的サポート
- 5) 岸本沙希, 後藤直樹: びわ湖東北部地域連携協議会推進事業, びわ湖東北部地域における質の高い看護の実践と人材の育成 ～ナイチンゲール看護思想に学ぶ～
- 6) 西山ゆかり, 流郷千幸, 安孫子尚子, 川嶋元子, 中島真由美, 木村知子, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)(課題番号 21K10591). 2021 - 2024.

4. 地域貢献

- 1) 中島真由美: 滋賀県看護協会ラダーⅡ・Ⅲ研修会講師、滋賀県看護学校協議会理事(会計)、近江八幡市立総合医療センター看護研究支援、看護実践研究学会誌査読者、等
- 2) 古川智恵: 日本糖尿病看護・教育学会専任査読委員、日本がんチーム医療研究会世話人、南大阪皮膚排泄ケア研究会世話人、等
- 3) 馬場好恵: 八幡高等学校連携講座「外科的手洗い」講師、模擬授業: 長浜北星高校、看護協会主催看護の魅力配達事業講師 彦根翔西館高等学校
- 4) 岸本沙希: 近江八幡市立総合医療センター 院内防災訓練参加、第五地区看護協会連絡員、save the birthday 救護班、ナイチンゲール看護研究会事務局、学生防災士活動
- 5) 後藤直樹: 滋賀県学校協議会研修委員、滋賀県看護連盟湖東地区支部支部長、模擬授業(八幡商業高校)、ナイチンゲール看護研究会(広報担当)、save the birthday 救護班ボランティア

1-3 老年領域活動報告

1. 構成メンバー

安田千寿准教授、森野美由紀講師

2. 教育活動

1) 1年次後期：看護のための人間発達論（1単位）

老年領域は1コマを担当し、旧カリキュラムの老年看護論の授業内容である高齢者の心身機能の特徴の概要と生涯発達理論を概説した。昨年は理論家の説明をすることが中心だったが、高齢者当事者の日記等を活用し高齢者が日常で思いを馳せる内容や葛藤を紹介し考察する機会を持った。

2) 2年次前期：老年看護論（1単位）

新カリキュラムとなり授業時間数が半分となった。生涯発達の考え方を時々で織り交ぜながら、当事者の理解と高齢者を取り巻く環境やシステムの理解ができるようワークシートと課題レポートを組み合わせて進めた。学生の学修状況を評価しつつ一方的な講義とならないような工夫を行った。

3) 2年次後期：老年看護援助論Ⅰ（2単位）

新カリキュラムとなり、高齢者の心身の特徴と日常生活の影響を学ぶ内容へとシフトした授業を行った。一般的な内容を概説した後、高齢者の事例を用い高齢者を総合的に理解すること、様々な生活の視点に着目してアセスメントすることを個人ワークからグループワークへと進みながら考察を深めた。また、地域で障害を持って生活する高齢者看護の目標を、当事者の尊厳や環境の事情も含め設定する考え方を実習指導者を招聘して概説した。

4) 3年次前期：老年看護技術論Ⅱ（2単位）

高齢者の特徴を踏まえたケアの在り方、尊厳を大切にする高齢者看護を学べるように看護過程の展開を軸にして演習を行った。グループワークを通して情報収集やアセスメントの視野を広げ、看護計画のロールプレイではケアを受ける高齢者の気持ちを感じ、学びを深めた。学習目標はおおむね達成できた。

5) 3～4年次：老年看護学実習Ⅱ（3単位）

豊郷病院、ヴォーリズ記念病院、友仁山崎病院の3か所で実習を行った。実習非常勤助手1～2名と共に学生個々に看護展開を通して高齢者看護を学ぶだけでなく、チームで関わったすべての高齢者を共有し、高齢者の個別性を考えたり、高齢者にとっての持てる力を活かした生活とは何か、自立・自律とは何か、について考えることを重視した。そのため、毎回のカンファレンス時間を60分に設定し、最終日には高齢者看護のテーマで経験を通して学んだことをチームで十分に討議する時間を確保した。高齢者看護の学びを各チームで資料にまとめ、目標達成を意識した成果物が完成し、学びの振り返りができた。

6) 4年次：地域統合実習（2単位）

学生の興味関心に合わせた実習計画を立て実施することができた。病院の協力によりそれぞれの課題に向き合い、看護師となる自分の成長をも意識することができた。

7) 4年次：卒業研究（4単位）

ゼミ生7名に対し、ゼミ前半は全員の集合形式で、後半は担当制の個別対応で指導を行った。そのうち3名の学生においては、当領域教員の都合により他領域の教授の個別指導を受け研究計画書を書き上げることができた。

8) 4 年次：国家試験対策

7名の学生には、必修と一般・状況設定問題ごとに点数が記入できるシートを配布した。模擬テストや小テストの結果を入力することで、学習成果や弱点が把握できるようにと考えていたが、教員への報告は一部の学生に留まった。報告がない学生の追跡が追いついておらず、国家試験対策委員会の指導が中心となった。

3. 研究活動

なし

4. 地域貢献

1) 安田千寿

- ・ 令和5年度長浜市介護認定審査会委員
- ・ 愛荘町介護保険運営協議会（副会長）、愛荘町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会委員、地域包括支援センター運営協議会委員、指定地域密着型サービス運営委員会委員
- ・ 滋賀県看護協会常任委員（学会委員）
- ・ 滋賀県レイカディア大学彦根校講師、草津校講師
- ・ 近江八幡市立総合医療センター第42回看護研究発表会における相談活動（6月12日、11月13日）、発表会講評（3月9日）
- ・ 水口東高校模擬授業、高齢者の理解と支援（7月12日）

2) 森野美由紀

- ・ 稲部町歓喜クラブ主催、講演会 講師（6月14日）、稲部町公民館
- ・ キャリアアップ講座 司会

1-4 母性看護学領域

1. 構成メンバー

小倉由紀子教授、花原恭子講師

2. 教育活動

- 1) **2年：母性看護論**（15時間1単位）では、「母性とは」より始まり、母子を取り巻く社会や親子、家族関係の変化、母子の権利ではリプロダクティブヘルス・ライツ（性と生殖の健康・権利）として幅広い内容を取り入れた。また災害時の母子などの看護の理解を深める授業内容とし、アクティブラーニング（DVDの視聴から討議）を実施した。さらに講義の前後には事前・事後の課題に取り組み、学びを深める機会をもった。
- 2) **2年：母性看護援助論Ⅰ**（30時間2単位）では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における正常経過と看護について講義を行っている。妊娠経過に伴う保健指導内容、分娩経過と看護、産褥経過と看護、正常新生児の生理的変化と看護の視点について、母性看護学実習にも活用できるように経過一覧表の作成を課題とした。ビジュラクラウドや視覚教材を使用しイメージ化をできるだけ図れるように試みた。
- 3) **3年：母性看護技術論Ⅱ**（60時間2単位）では、講義及び技術演習を含む内容とした。正常産褥・新生児を理解するにあたり、ウェルネス志向型の看護過程の展開を行った。初産婦の妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例のアセスメントから看護計画立案までを課題とした。技術演習では、妊婦健康診査に必要な計測、NSTモニターの装着と判読、産褥期の子宮底長測定、乳房管理、新生児の全身の観察と児の抱き方、沐浴を行った。全員が乳房モデルや子宮モデルを活用できるようにモデル数と時間配分に配慮し、目標達成に繋がった。実習に繋げるために、周産期における異常を課題とした。
- 4) **3年：母性看護学実習**（90時間2単位）は、COVID-19が5類に移行したため、5施設で病院実習を実施できた。学生2名1組で母子1名を受け持ち、病棟ではウェルネス志向型で看護過程を展開し、目標達成に繋がった。また、学内では、受け持ち対象の教育プランを各自考え、ロールプレイを行い、学生間で共有し理解を深めることができた。今年度は、帝王切開の方を受け持つ機会が増加し、ウェルネス志向だけでは看護展開ができない場面も見られたが次年度の課題とし、実習全体を通しておおむね目標達成に繋がった。
- 5) **4年：地域統合実習**（90時間2単位）では、実習施設以外の施設（総合周産期センター、産科クリニック、母子の広場等）で、ハイリスク母子、産後ケアをはじめとする母子の継続ケア、育児期の母子に関わることを目的として、各自の目標を設定し実施した。4年次の卒論のことも念頭に実習を実践できた。
- 6) **4年：卒業研究**（4単位）では、6名のゼミ生それぞれのテーマに対しての研究指導を行った。母性看護学領域に即したオリジナルのテーマで発表もできた。
- 7) **4年助産師学校受験対策**：助産課程進学希望者5名（含母性看護学ゼミ生以外の2名）に進学受験指導や面接指導等を行い、うち3名がそれぞれ進学することとなった。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 穴井美恵、小倉由紀子：看護系大学生における高齢者の性・セクシュアリティに関する講義前後での認識の変化、医学と生物学(Medicine and Biology)、Vol.164、2024年3月
- 2) 花原恭子、平田美紀、小倉由紀子、村井博子：母性・小児看護学領域の協働による子育て支援を学ぶ教育実践報告、聖泉看護学研究、13、83-87、2024年3月

- 3) 高木由美、花原恭子、立岡弓子：妊娠末期から産後3ヵ月までの睡眠の実態とマイナートラブルとの関連、日本母性看護学会誌、23(2)、32-38、2023

<学会発表>

- 1) 小倉由紀子、佐藤香代：性に関わる専門家による大学生に行う性教育プログラムの内容の精選—デルファイ法を用いた解析—、第64回日本母性衛生学会学術集会 大阪、2023.10
- 2) 小倉由紀子、佐藤香代：性に関わる専門家による大学生に行う性教育プログラム内容の精選—KHCoderによる自由記述解析—、第64回日本母性衛生学会学術集会 大阪、2023.10
- 3) 小倉由紀子、佐藤香代：看護女子大学生の「性の健康」の実態調査、第37回日本助産学会学術集会 東京 2023.10
- 4) 小倉由紀子、佐藤香代：看護女子大学生が望む「性の健康」をめざすプログラム内容の精選—KHCoderによるテキストマイニングを用いた自由記述解析—、第37回日本助産学会学術集会 東京 2023.10
- 5) 小倉由紀子、穴井美恵：看護系大学生における高齢者の性・セクシュアリティに関する講義前後での認識の変化—KHCoderによるテキストマイニングを用いた分析—、日本科学学会学術集会 下関 2023.12
- 6) 小倉由紀子、西原みゆき、谷口美智子：Process of coping with “Crying” adopted by male nursing students、聖泉大学看護学部 看護フォーラム、2023年9月
- 7) 花原恭子、立岡弓子、一杉正仁：つわりと自動車運転～妊婦運転者に対する実態調査～、聖泉大学看護学部 看護フォーラム、2023年9月。

<助成金による研究活動>

- 1) 花原恭子：滋賀県内の外国人妊婦の自動車乗車状況とシートベルト着用の実態調査、2023年度日本自動車工業会委託研究
- 2) 花原恭子：びわこ東北部地域連携協議会、地域コミュニティの活性化事業 妊婦のためのマインドフルネス体験会・交流会

4. 地域貢献

小倉由紀子

- ◆ 2023年度びわ湖東北部地域生涯学習講座 市民教養講座 講師 米原 2023.8.27
- ◆ びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック 私とパートナーの健康づくり—プレコンセプションケアって知っていますか— びわ湖東北部地域連携協議会 2023.11
- ◆ 岐阜県加茂高校性講話 講師
- ◆ 岐阜県加茂農林高校 保健講話 講師
- ◆ 滋賀県母性衛生学会 査読委員

花原恭子

- ◆ 滋賀県助産師会理事 第一地区支部長
- ◆ 滋賀県母性衛生学会 査読委員
- ◆ 近江兄弟社高校「みらい探求」出前授業講師
- ◆ 八幡高校学校連携講座「助産師の仕事ってどんな仕事？」
- ◆ 滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座（母性・助産）客員講師

1-5 小児看護学領域

1. 構成メンバー

平田美紀教授、村井博子講師

2. 教育活動

1) 2 年次前期：小児看護論（15 時間 1 単位）新カリキュラム

新カリキュラムとして 1 単位 15 時間となった。子どもとはどのような存在なのか、子どもの権利や家族機能、子どもに係る法律や施策について講義を行った。発達理論に関する 2 コマはこれまで通り人間学部教員が担当した。4 コマが終了した時点で小テストを行い定期試験に向け知識の確認を行った。

2) 2 年次後期：小児看護援助論 I（30 時間 2 単位）新カリキュラム

新カリキュラムとして科目名が変更となった。子どもの成長・発達の特徴について講義し、特徴を一覧表にまとめる課題を提示した。健康な子どもの遊びについては、発達段階の特徴を理解するために年齢に応じたおもちゃを作成する演習を行った。症状別看護では、子どもの特徴を踏まえてアセスメントする視点を講義した。

3) 3 年次前期：小児看護技術論 II（60 時間 2 単位）

小児看護の対象となる病気の子どもとその家族を理解するにあたり、事例展開について講義と個人ワークとし、看護上の問題の抽出及び看護計画の立案までを課題とした。課題に対しては、個別で記録指導を行い看護過程への理解が深まるようにした。さらに、看護過程から抽出した看護計画とプレパレーションの演習がつながるように、事例患児の個別性からプレパレーションツールを作成（個人課題）する演習を行った。技術演習については小児特有のバイタルサイン測定や点滴固定などを組み込み、モデル人形を使用しながら少人数グループで実施した。

4) 3 年次（後期）～4 年次（前期）：小児看護学実習（90 時間 2 単位）

健康な子どもの成長・発達と地域で暮らす障害をもつ子どもを理解するために 2 か所の保育園と特別支援学校にて、各 2 日間ずつ実習を行った。入院している子どもと家族への看護を理解するために長浜赤十字病院（2G）、彦根市立病院（3G）、近江八幡市立総合医療センター（6G）、滋賀県立小児保健医療センター（3G）の 4 か所で実習を行った。今年度より新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことで、自己健康管理を継続しつつ全施設とも 9 時～16 時の実習とした。

5) 4 年次：地域統合実習（2 単位）

ゼミ生 9 名の興味・関心にあわせた目的を立て個人で実習計画書を作成し、目的に応じて、野洲養護学校、近江八幡市立総合医療センター、つくし保育園で実習を行った。患児や園児に実施や指導が行えるように事前にプレパレーションツールや紙芝居を作成し予定通り進められた。

6) 4 年次：卒業研究（4 単位）

ゼミ生の関心あるテーマについての研究計画書を作成するために、クリティークを繰り返し小グループおよび個別にて指導・助言を行った。また、研究計画書に基づき、研究依頼書や同意書などの必要書類について指導し作成した。全員が研究計画書の提出ができ、学内看護研究発表会にて発表した。

7) 4 年次：国家試験対策

過去問を中心にゼミで勉強会を行い、学習方法の修得につなげた。また模擬試験の結果から面談を行い、個別対応をした。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 植西和美, 中島真由美, 平田美紀. (2024) : 脳梗塞患者の再発予防指導に自己目標を設定した退院後の実態調査～聞き取り調査を通して見えた患者の再発予防行動の変化～, 聖泉看護学研究, 13, 55-64.
- 2) 村上美潮, 平田美紀. (2024) : 医療的ケア児に関わる保育所看護職の役割と課題に関する文献検討, 聖泉看護学研究, 13, 65-76.
- 3) 花原恭子, 平田美紀, 小倉由紀子, 村井博子. (2023) : 母性・小児看護学領域の協働による子育て支援を学ぶ教育実践報告, 聖泉看護学研究, 83-87.

<学会発表>

- 1) 平田美紀, 堀田法子. (2023) : 採血を受ける2歳未満の子どもと母親への支援モデルのプロセス評価, 第43回日本看護科学学会学術集会 プログラム集, 118.

<助成金による研究活動>

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2020～2023年
平田美紀 : PCPプログラムの開発 : 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム (科研課題番号 : 19K11102)
- 2) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2020～2023年
村井博子 (研究分担者) : PCPプログラムの開発 : 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム (代表者 : 平田美紀 科研課題番号 : 19K11102)
- 3) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2021年～2024年
平田美紀, 村井博子 (研究分担者) : 食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構築 (代表者 : 鈴木美佐 科研課題番号 : 21K10927)
- 4) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023年～2026年
村井博子 : 発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム (FCPS) の開発 (科研課題番号 : 23K10122)
- 5) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023年～2026年
平田美紀 (研究分担者) : 発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム (FCPS) の開発 (代表者 : 村井博子 科研課題番号 : 23K10122)
- 6) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023年～2026年
平田美紀, 村井博子 (研究分担者) : 予防接種を受ける子どもの「親のためのプレパレーションガイド」の開発 (代表者 : 流郷千幸 科研課題番号 : 23K10065)

4. 地域貢献

- 1) 平田美紀
 - ・日本小児看護学会誌編集委員会査読員
 - ・彦根市子ども・若者支援地域協議会代表者
 - ・近江八幡市立総合医療センター研究相談
- 2) 村井博子
 - ・滋賀県看護学校協議会臨地実習委員会

1-6 精神看護学領域

1. 構成メンバー

間文彦教授、石井薫講師、佐伯興平助教

2. 教育活動

1年：人間関係論（間）。講義内容としては、看護師として重要である援助的コミュニケーションのあり方を理解するため、manaba を中心に対人関係における自分自身のコミュニケーションの傾向を再考察できるような課題構成を行った。

2年：精神看護論（間）。精神看護学において基礎となる疾患や社会復帰に向けての活動や、精神障害者の処遇や歴史的背景を踏まえた講義を行った。

精神看護援助論Ⅰはオムニバスで開講した（間、石井、佐伯）。精神障害を抱えて生きることの意味、精神科における行動制限やリスクマネジメントにおける現状と課題、ストレングスに着目した講義を行い、精神障害を持つ当事者と当事者を地域で支える他職種による講義の場を設定することで、地域包括ケアシステムの重要性の理解を促した。

3-4年：精神看護技術論Ⅱはオムニバスで開講した（間、石井、佐伯）。看護過程を展開する理論としてオレムアンダーウッドのセルフケア不足看護理論を中心に講義をおこなった。また、病院から地域へと転換されている精神保健の流れから、ストレングスモデルを使って患者を理解するための講義と演習を取り入れた。

精神看護学実習は、covid-19 対策を行い、水口病院 2 病棟（亜急性期病棟・回復期病棟）、豊郷病院 2 病棟（慢性期病棟・急性期病棟）で実習を行なった。2024 年 2 月 19 日以降の 7 クール目、8 クール目の豊郷病院での臨地実習では、covid-19 感染拡大に伴い、N95 マスク着用、病棟実習期間短縮（2 週間→1 週間、covid-19 感染者のない病棟で 1 週間に期間短縮のうえ 2 グループが実習）し、学内日の情報共有により学びを深めた。水口病院、豊郷病院ともに学生の知識と実際が統合できるよう配慮していただき 8 クールの病棟実習を行えた。地域における精神障害者の社会資源として、精神障がい者通所施設就労継続支援 B 型作業所モコハウス・ワークステーション虹での半日実習を行い、小規模作業所の理解を深めることができた。学内での実習最終日の午前中、各自の受け持ち患者への看護展開からの学びに加え、グループ毎に実習病棟の特性・入院患者の入院形態の内訳の説明等を発表し、閉鎖病棟と開放病棟のハード面とソフト面の違いの理解を深め、共通認識を深める指導を取り入れた。

カンファレンスは、病棟指導者に参加してもらい毎日 30 分程度行った。実習 1 週目は、患者との距離感をつかめず、患者を質問攻めにしたり、患者の妄想発言を肯定しながら訴えを傾聴し、患者の妄想を強める関わりをしたりするなど、学内での学びを活かすことができない学生が多かった。しかし、プロセスレコードの活用により自身のコミュニケーションの傾向を理解し、関わり方を改善することができた。また、患者のストレングスに着目し、患者のセルフケアレベルに応じた援助を実施することができた。

4年：地域統合実習は、covid-19 対策を行い、水口病院訪問看護・デイケア・2M 病棟にて 7 名の学生が実習を行った。当初 2 名の学生が SD 病棟での実習を希望していたが、covid-19 のクラスター発生により 2M 病棟に実習場所を変更して対応していただいた。長期入院患者の退院後の生活への思いを聴くこと、退院後の患者の生活の場に訪問すること、急性期病棟での患者との関わりを通して、入院中の看護の役割や多職種連携について考えを深める機会を得ることができた。

卒業研究は、それぞれの研究テーマに沿った研究指導を行い、入院中～地域で暮らす精神障害者への関わり、精神保健上の問題リスクを持つ対象への支援などを主体的に学習することができた。

3. 研究活動

<学会発表>

なし

<助成金による研究活動>

なし

4. 地域貢献活動

各教員

1) 間文彦

- ・ 日本看護協会滋賀県支部主催 「看護研究をやってみよう」 講師
- ・ 彦根市公共上下水道事業審議会委員
- ・ 彦根市地域支援会議委員 理事
- ・ びわ湖東北部地域連携 市民公開講座
- ・ びわ湖東北部地域連携 健康講座
- ・ 滋賀県社会福祉協議会委員
- ・ 第 41 回滋賀県社会福祉学会 座長・審査委員長
- ・ 近江地域学会 理事
- ・ 社会福祉法人かすみ会 第三者委員会 委員長
- ・ 彦根市地域支援会議委員長

2) 石井薫

- ・ 滋賀県看護学校協議会令和 5 年度研究会

3) 佐伯興平

- ・ 滋賀県内私立高校連携講座（広報担当）
- ・ 八幡高等学校連携講座（広報担当）

1-7 公衆衛生看護学領域

1. 構成メンバー

安孫子尚子教授、後藤則子講師

2. 教育活動

<看護学部>

1年生：「公衆衛生看護論（新カリ）」「ヘルスプロモーション活動論（新カリ）」

公衆衛生看護の理念や活動の歴史、対象や看護の場や方法について教員の事例やDVDを用いながら、学生が公衆衛生看護に関する具体的なイメージを持てるような講義を行った。また個人・家族・集団の学習に関する現状や課題に基づき、健康教育を検討できるような諸理論の説明を行った。

2年生：「地域看護技術論Ⅰ」「地域看護技術論Ⅲ」「公衆衛生看護活動論（新カリ）」

公衆衛生看護の理念や活動の歴史、看護の対象に対する活動の展開について講義を行った。保健師が地域住民に行く健康支援について、母子事例を用いた家庭訪問援助計画作成と母子、高齢者のライフステージ別の健康教育の企画・実施の演習を行った。個人やグループで取り組む課題は、教員が授業毎に助言を行うことで学習目標を達成した。地域診断の演習では、滋賀県内の模擬市町のデータからグループ地域課題を見出せるように工夫し成果発表を行い、全体の共通理解につながった。

旧カリキュラムの「地域看護技術論Ⅰ」「地域看護技術論Ⅲ」については、単位未修得の学生2名に対し、到達目標を達成するために教員が1対1で対応した。

3年生：「地域看護技術論Ⅱ」

対象別保健活動について、保健医療福祉行政の法律に基づき行う活動を説明し、課題付レポートに取り組むことで学生の学びを促進した。

4年生：「地域看護学実習」「卒業研究」「保健師国家試験対策」

保健師教育課程の30名は県内保健所、市町保健センター、地域包括支援センターで実習を行った。家庭訪問では学生のみで行う継続訪問の実施し、家庭訪問報告会を行うことで学生が個別事例から地域課題へのつながりを意識させた。学生は実習前後の発表会の準備から実施に向けた地域診断の取り組みによって地域特性を理解した。また、同じ時期に別の実習地で実習を行うグループが相互に学びを深められるように、報告会を実施した。実習での健康教育や地域診断というグループでの取り組みは、学生自身が自分の役割を果たし、建設的に話し合い、グループダイナミクスを学ぶ機会となった。

公衆衛生看護学ゼミナール：「卒業研究」「地域統合実習」

「卒業研究」では、7名が研究計画書作成に取り組んだ。研究方法は、質的・量的研究、対象は保健師・看護師・看護学生・在宅療養患者、分野は多岐にわたり、学生が学んだ4年間に持った疑問を明らかにする手がかりをつかむことができた。「地域統合実習」では、7名の学生が彦根市の社会福祉協議会が実施する事業について参画し取り組んだ。

<人間学部>

2年生：「保健管理学」

健康運動実践指導者認定でもある授業では、健康の定義やわが国で取り組まれている健康づくり施策、施策の具体的な実践について説明した。

各メンバーの専門性を生かした授業科目「防災論」「災害看護論」「近江でのSDGsの実践」を担当している。

3. 研究活動

<論文および報告書>

- 1) 安孫子尚子, 巽あさみ. (2024). 高齢者の人生の最終段階における医療・ケアの意思決定に関連する要因, 医学と生物学(Medicine and Biology), 164 (1), i1_Oj04.
- 2) 多胡陽介, 安孫子尚子. (監修) (2024). シニアサロンで気軽に使える!わかりやすい!レクリエーション・アイデア集, 1.

<助成金による研究活動>

- 1) 西山ゆかり, 流郷千幸, 安孫子尚子, 川嶋元子, 中島真由美, 木村知子, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)(課題番号 21K10591). 2021 - 2024.
- 2) 後藤則子, 安孫子尚子: びわ湖東北部地域連携協議会「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」～がん患者に対する支援～学生が簡単に制作できる「タオル帽子」～
- 3) 安孫子尚子, 後藤則子: びわ湖東北部地域連携協議会「地域コミュニティ活性化事業」～光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり～

4. 地域貢献活動

1) 安孫子尚子

- ・ 一般社団法人全国保健師教育機関協議会機関紙「保健師教育」査読委員
- ・ 湖東圏域看護ネットワーク推進会議委員
- ・ 彦根市高齢者保健福祉協議会会長
- ・ 彦根市地域密着型サービス運営委員
- ・ 彦根市健康づくり推進協議会会長
- ・ 彦根市立病院倫理委員会委員
- ・ いずみ健やか塾（自主活動グループ）への活動支援
- ・ ピンクリボンひこね実行委員会監査、がん検診推奨チラシ作成と彦根市内中学校の配布、ホワイトディ検診の実施
- ・ 八幡高等学校連携講座「大学での看護学の学び」講師
- ・ 私立高等学校と聖泉大学の連携講座「大学紹介・大学での看護学の学び」担当

2) 後藤則子

- ・ 滋賀県精神医療審査会（6回/年）, 精神保健法第38条の4の規定に基づく退院等の請求にかかる面接調査2名、法改正に伴う変更周知のための滋賀県医療審査会全大会(1回/年)
- ・ 「保健師初任者研修会」講師（高島保健所）

1-8 地域・在宅看護学領域

1. 構成メンバー

森本喜代美教授，佐藤綾野助教

2. 教育活動

1) 2年次（前期）：地域・在宅看護論

新カリキュラム初年度にあたり、全8回の内容は、地域在宅看護論を学ぶ必要性、取り巻く社会、社会制度を中心に講義した。各項の終了後にmanabaを利用し、小テストを実施し、その解説を加えた。授業教材は現場実践が理解しやすく、さらに感性が育つよう、相応しい医療モデルビデオ等を取り入れた。

2) 2年次（後期）：地域・在宅看護援助論Ⅰ

毎授業終了後、10分間課題を提示し、授業の振り返りと学習確認を行った。また事例を用いて対象へのアプローチを探索する演習を行い、授業内でフィードバックした。外部講師として「在宅見取り」「小児在宅ケア」「在宅医療」の実践者を招き多くの体験を用いて講義を受ける機会を提供した。学びをレポートし、manabaに提出とした。その中で自己の課題への気づきと同時に、知識の蓄積、拡大を促した。また、適宜、視覚的教材を取り入れ在宅療養者のイメージができるように教授した。

3) 3年次（後期）：在宅看護技術論Ⅱ

看護過程においては、個人ワークで行った事例をグループワークでさらに深めるように授業設計を行った。個人ワークに対しては、適宜解説を加え、次の段階へ進めるよう指導し、在宅看護過程の特徴の理解が深まるようにした。また演習では、訪問看護ステーションでのマナー、経管栄養（胃瘻管理・注入）、排便ケア（摘便・おむつ力学）ポジショニング、フットケアの演習を行い、在宅看護の特性と役割の認識向上を高めた。さらに、地域包括支援センターの役割や認知症療養者の地域の取り組みを外部講師の協力を得て教授した。

4) 3年次（後期）～4年次（前期）：在宅看護学実習

学内実習3日間（オリエンテーション、振り返り、まとめ）、地域包括支援センター実習2日間、訪問看護ステーション実習5日間の実習構成で行った。訪問看護実習においては、多くの同行訪問を通して、在宅で暮らす療養者の生活、訪問看護師の役割について学ぶことができた。地域包括実習では介護保険制度のもと実践されている地域の高齢者支援についてその実際を知ることができ、地域で暮らす高齢者と家族のニーズについて考えることができた。

5) 4年次（通年）：ゼミ

卒業研究は、学生の関心のあるテーマを尊重し、内容を深め、計画書作成まで全員が到達した。地域統合実習は「看護小規模多機能型施設」と「地域包括ケアセンターいぶき」、「訪問看護ステーション」で実施した。地域で療養者を支える仕組みと高齢者や障害者、認知症患者の多い地域での看護活動を学んだ。また、訪問看護ステーションでは、学生の関心のある医療的ケアの実施、緩和ケア、ストーマ造設後の療養者の事例を訪問させていただき、個別性のある支援方法について深めることができた。国試対策は学生の個別性に応じ指導を行った。

3. 研究活動

< 著書 >

< 論文 >

- 1) Masako Higo, Kiyomi Morimoto. (2023) : Sleeping Conditions of Older Adults with Delirium Receiving Home Care, *Health*, 15, 895-907.
- 2) 西川まり子, 佐藤綾野, 永井翔, 奥村茂夫, 内山昌美, 若園尚美, 肥後恵美子(2022). 世界のリーダーが, COVID-19 パンデミック中に何を語っているのか? -2021 年 I C N Congress, *日本ヒューマンヘルスケア学会誌*, 7 (2).

< 学会発表 >

- 1) MORIMOTO K, ARAI K , MORIMOTO A . (2023) Current Status of Separated Families Caring for Elderly Living Alone in Japan, 12th IAGG, 横浜.
- 2) ARAI K , MORIMOTO A, MORIMOTO K . (2023) The structure of "Monitoring" for the continuation of home life of the elderly living alone: A scoping review, 12th IAGG, 横浜.
- 3) ARAI K , MORIMOTO A, MORIMOTO K . (2023) Structure of Multidisciplinary Support for Elderly Housing with Care Services in Japan: A Scoping Review, 12th IAGG, 横浜.
- 4) Kiyomi Morimoto, Kanako Arai. (2023) Current Status of Collaboration Among Medical Professions Involved in Lymphedema Care for Elderly People Living at Home, 27th East Asian Forum of Nursing scholars, Hong Kong
- 5) Kanako Arai , Kiyomi Morimoto, Factors That Impact the Ability of Older People Living Alone to Continue Living at Home, 27th East Asian Forum of Nursing scholars, Hong Kong

< 助成金による研究活動 >

- 1) 森本喜代美：在宅高齢者の続発性リンパ浮腫ケアにおける医療職連携モデルの構築（課題番号 21K17445），2020-2023.
- 2) 赤澤千春, 森本喜代美 他：高齢者の特性を考慮した下肢リンパ浮腫を軽減する継続可能な手技の開発，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）,2019-2023.

4. 地域貢献

森本喜代美：滋賀県看護協会 新卒訪問看護師育成プログラムによる育成支援体制の検討委員.

森本喜代美：キャリアアップ講座 「研究倫理について」講師 5月26日, 2023.

森本喜代美：近江兄弟社高校 学科セミナー講師, 訪問看護ってどんな仕事, 7月6日, 2023.

森本喜代美：市立野洲病院 看護部研究支援（2023.07.~2024.02）

森本喜代美：女子サッカー部 副部長

佐藤綾野：日本ヒューマンヘルスケア学会副事務局長, 評議員, 第5回学術集会実行委員(Web),

佐藤綾野：日本人間関係学会第30回全国大会実行委員(兵庫),

佐藤綾野：草津東高校進学相談会, 看護分野, 3月20日, 2023.

佐藤綾野：茶道部 副顧問

2. 委員会活動報告

2-1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：西山ゆかり
- 2) 委員：古川智恵、安田千寿、馬場好恵、石井薫、佐藤綾野、岩渕亜貴子

2. 所掌事項(看護学部教務委員会規程)

- 1) 試験に関する業務
 - (1) 定期試験日程調整 (2) オリエンテーション (3) 定期および再試験の依頼
 - (4) 試験結果一覧作成 (5) 成績通知 (6) 進級判定資料作成 (7) 試験監督の調整
- 2) 学年暦の作成
- 3) 各ワーキンググループの役割(教務委員会内取り決め)
 - A: フレッシュゼミ、キャリア教育Ⅰに関すること、1年次・2年次 PROG
 - B: 卒業研究、キャリア教育Ⅱ・Ⅲに関すること、4年次 PROG
 - C: キャリア教育Ⅳ、履修要項、履修登録、時間割、試験日程、外部講師対応、遠隔授業・定期試験・3年次最終試験に関すること、新カリと旧カリの科目読み替えと手続き

*各ワーキングが担当する内容報告により委員会で検討を行った。

3. 委員会活動

回数	年 月 日 (曜日)	主な議題、内容等 (毎回：各ワーキング報告)	備考
1	2023年4月10日 (月)	第1回委員会開催 ・2023年度の役割分担と内容確認 ・旧カリと新カリの読み替えについてと仮進級者の授業保障の検討 ・2年生、3年生仮進級学生の再履修科目と対応の検討 ・4年生のキャリア教育Ⅲの未履修者対応の検討 ・1年生の他大学での既修得科目の読み替えについて (申請) ・新年度各学年の教務ガイダンスの振り返り ・DPと目標設定、ディプロマサブリメントについての説明 ・新カリの疾病障害論についての申し合わせ事項・規定の見直し ・前年度の各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告	参加者 7名
2	2023年5月15日 (月)	第2回委員会開催 ・前期開講科目および履修登録状況の確認 ・前期8コマ科目の公欠の取り扱いと「F」判定についての検討 ・6月の第1ターム試験時間割について ・7月下旬からの前期試験時間割作成について ・キャリア教育の準備状況報告 (Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) ・卒業研究要項の検討 ・他大学の既修得科目の単位認定承認の報告 ・新カリの学生のPROGテストについて ・各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告	参加者 7名
3	2023年6月12日 (月)	第3回委員会開催 ・前期試験に伴う学年歴の確認 (追試験、再試験、成績発表、手続き等) ・前期試験時間割作成、配信の日程確認 ・3年生の最終試験についての日程の確認と手続き ・現3年生60名の卒業研究ゼミの人数の検討 ・各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告	参加者 7名
4	2023年7月11日 (月)	第4回委員会開催 ・第2ターム前期定期試験の疾病障害論の旧カリと新カリの試験について ・前期出席日数不足の学生の確認 (4名) ・後期時間割についての検討 ・卒業研究発表会運営について ・卒業研究の研究計画書の提出についての確認 ・公欠の取り扱いについての連絡方法の確認と学生への周知について ・各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告	参加者 7名
5	2023年8月10日 (木)	第5回委員会開催 ・第2ターム前期試験の振り返り ・試験問題の持ち出し案件に対する試験監督の方法に関する検討 ・前期成績低迷者や「F」判定の学生の情報共有 ・各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告	参加者 7名
6	2023年9月10日 (金)	第6回委員会開催 ・前期の成績、3科目不可の学生への対応について ・3年生の最終試験の実施結果についての報告 ・後期履修登録と変更、卒業要件130単位の未満の学生1名の対応 ・卒業研究の提出状況と発表会の進捗状況 ・学年歴の検討 (成績発表から再試験までに日程延長について) ・各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告	参加者 6名

7	2023年9月22日（金）	卒用研究発表会と看護フォーラムの開催（運営）	
8	2023年10月5日（木）	第7回委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 履修登録と単位取得状況の確認と報告 後期選択科目の開講について（2科目が5名以下） 新カリと旧カリ学生8名の読み替え科目の報告と対応について 3年生のゼミ調査報告と割り振りについての検討 卒業研究発表会の振り返りと評価についての検討 次年度の学年歴の検討 各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告 	参加者 7名
9	2023年11月2日（木）	第8回委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究ゼミ案の決定、教授会での承認 後期定期試験の日程について 成績不服申し立て@調査願いの取り扱いについての検討（全学） 2024年度シラバス作成スケジュールの確認と依頼（全学） 次年度の非常勤講師未決定科目の確認と依頼状況の報告（全学） 3年生の新カリと旧カリの読み替えについて 2024年度以降の新規科目の責任者・担当者の決定と依頼 卒業研究要項の見直しの検討 PROGテストを、WEBでの受験に変更をする。 各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告 	参加者 6名
10	2023年12月18日（月）	第9回委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> 看護倫理の科目に対して成績評価調査願いが提出され結果報告 後期定期試験日程の検討 「F」判定の学生2名の確認 2024年度の非常勤講師依頼と決定、未開講科目（スポーツC）について 2024年度予算について 各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告 	参加者 7名
10	2024年1月メール配信	<ul style="list-style-type: none"> 後期時間割の配信 シラバスのチェックとAAシラバス修正期間について 各ワーキングキャリア教育の進捗状況の報告 	
11	2024年2月21日（水）	第10回委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> 次年度の教室使用について全学教務委員会からの報告 キャリア教育を2024年度から担任に科目責任者を移行完了するため、教務委員会マターの科目の確認 2024年度前期時間割の検討 2024年度履修要項作成の修正について（教授会提案案） 2024年度教科書販売について 	参加者 7名
12	2024年2月23日（金） 2024年3月7日（木）	新カリの2年生中間PROGテスト（コンピテンシー 3回/4年）の実施	
13	2024年3月19日（火）	第11回委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> シラバスチェックの結果報告について 新学期の教務ガイダンス（履修登録等）担当について 2023年度の振り返りと評価 	参加者 6名

4. 委員会総括と課題

今年度も、COVID-19 感染に関する行動指針に則り、学生が不利益にならないように感染した学生に関しては授業保障を行った。また今年度はすべて対面での授業を運営することができた。また、新カリキュラムのスタート 2 年目であり、過年度生の科目読み替えと履修登録、その他学生の不利益が起こらないように、適宜文章で説明を行い進めた。

以下、各ワーキングについての主な振り返りと課題である。

キャリア教育を学年担任に移行できたことで、委員会業務のスリム化がはかれた。フレッシュゼミと卒業研究Ⅱのみ今後は教務委員会の管轄となる。キャリア教育Ⅰ～Ⅳの課題に関しては、2024年度の運営が円滑に進むように、教務委員会も支援をしていく。キャリアⅢ・Ⅳともに、卒業研究入門と研究発表会が含まれていたが、2024年度からは、キャリア教育Ⅲの「卒業研究入門講座」が「卒業研究Ⅰ」として科目立てされたことで、教務委員と学年担任との役割分担やすみ分けが明確になり、運営しやすくなると思う。次年度からは時間割も週案とし、教員から科目のスケジュールを学生にしっかりと伝え、次年度からはコロナ前の状況と同じ体制に整えていく。

課題としては、次年度は、仮進級者を減らし、3年前期の最終試験を実施しなくても良いように、担任と学生委員会が主となり、教務委員会も協働して対応していく必要がある。また前後期を通して試験問題を持帰る学生がいたことをうけて、定期試験監督をどのようにするか、検討する必要がある。

以上、委員会活動の1年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-1 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安孫子尚子
- 2) 委員：小倉由紀子、安田千寿（1）、花原恭子（2）、村井博子（3）、小林菜穂子（4）（学年）

2. 所掌事項

- 1) 学生委員会を開催
- 2) 学年担任と学生指導・支援及びチューターとの連携
- 3) 長期休暇前の生活指導
- 4) 学生課との連携協力①学生表彰 ②就職支援 ③学友会 ④新入生オリエンテーション
⑤奨学金 ⑥クラブ ⑦学生の生活・学習環境 ⑧学生便覧
- 5) 万聖祭への参加協力
- 6) 卒業パーティー協力
- 7) 全学学生委員会との連携協力
- 8) 教育後援会への出席(委員長)

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等
	毎回	全学学生委員会報告 担任報告（気になる学生、学習支援状況）
1	2023年4月6日（金）	1. 2023年度年間計画 2. 担任（チューター）業務の確認 3. 学生ガイダンス、オリエンテーションの振り返り
2	2023年5月11日（木）	1. 学長表彰/奨励表彰について（新2～4年） 2. チューターによる面接状況について 3. 学友会の年間計画
3	2023年6月8日（木）	1. 万聖祭に向けて 2. 全学学生委員会報告（卒業アルバム廃止 2024年度入学生より）
4	2023年7月13日（木）	1. 前期試験終了後学年ガイダンスについて 2. 全学学生委員会報告（卒業アルバム廃止に向けた意見報告）
5	2023年9月4日（月）	1. 学年ガイダンスの振り返り 2. 万聖祭について（取り組みや教職員の支援内容） 3. 全学学生委員会依頼（全国交通安全運動教員配置）
6	2023年10月2日（月）	1. 万聖祭に向けた学年企画、教員企画 2. 学生のクラブ活動や同好会について 3. 学生委員会組織（担任/グループチューター制） 4. 休学者、復学者への対応について 5. 全学学生委員会報告（卒業アルバム/卒業パーティー）
7	2023年11月8日（水）	1. 学生委員会組織（担任/グループチューター制） 2. 担任が主担当となるキャリア教育について 3. 全学学生委員会報告（万聖祭、学生便覧について）

8	2023 年 12 月 13 日（水）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生委員会組織（担任/グループチューター制） 2. 2024 年度学生委員会予算について 3. ロッカー内での盗難 4. 卒業パーティーについて
9	2024 年 1 月 17 日（月）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生委員会組織（担任/チューター制） 2. 休学者、復学者への担任対応について 3. 新入生学外オリエンテーリングについて 4. 卒業パーティーについて
10	2024 年 2 月 2 日（金）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生委員会組織（担任/チューター制） 2. 2024 年度の学友会 3. 卒業パーティーについて 4. 4 月の学年オリエンテーションについて
11	2024 年 3 月 13 日（水）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業パーティーについて 2. 2024 年度 1 年生学外オリエンテーリングなど 3. 2023 年度の総括

4. 委員会総括

1) 学生委員会組織（担任とチューター）について

委員会では後期から担任とチューター役割について検討した。2024 年度からはグループチューター制から 1 教員が 1 年生から 2 年生の学生複数を持ち上がるチューター制に、担任の教員数は 1 年生と 2 年生が 3 名、3 人と 4 年生が 2 名とした。チューターは学生生活と相談への支援を行い面談記録によって担任との情報共有を行う。担任は学年企画支援やキャリア教育という学年全体の支援、過年度生や学籍移動などの個別支援となり、担任を支える役割は教授 2 名が担うこととなった。今後は新しい体制による連携を面接記録（システム化に向けて）などで確認していく必要がある。

2) 担任を中心としたイベント（学外オリエンテーリング、フォトコンテスト）

1 年生のオリエンテーリングは一部タクナル（チームビルディング）を取り入れ、大学周辺の探索を行いグループによるホームページ連載を行った。しかし、他学年でのイベントは実施できていなかった。2024 年度は各学年における交流の機会をもつために予算化した。

3) 学友会活動について

今年度の学友会活動は、万聖祭（11/11）の企画、準備、当日運営であった。前年度より規模を拡大したが、学友会と万聖祭実行委員との独立役割、当日までのスケジュール管理など課題は残った。2024 年度も万聖祭は 1 日開催予定である。学友会（万聖祭実行委員を含む）の体制を見直しながら行う予定である。

4) 学生を中心としたイベント企画とその実施（卒業パーティー）

学位授与式終了後、ホテルニューオーミに移動し、卒業パーティーを実施した。学位授与式のタイムスケジュール、移動手段と学生課との連携、4 年生の欠席者に対する対応には課題が残る。

2-3 国家試験対策委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：小倉由紀子、高島留美、馬場好恵、石井薫、後藤直樹、後藤則子、山川直美・事務局

2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策に関すること
- 2) 看護師国家試験に関すること
- 3) 保健師国家試験に関すること

3. 委員会活動

	年 月 日(曜日)	議題、内容等
1	2023 年 4 月 5 日(水) 13：15～14：00	<ul style="list-style-type: none"> ・国試対策委員会の役割について ・2023 年度国試対策年間計画について ・強化対象者の選出と支援について ・低学年の対策について ・保健師対策について ・既卒生の対策について
2	2023 年 7 月 11 日(火) 9：10～10：30	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の運営について ・強化対象者の選出と支援について ・低学年対策について ・保健師対策について
3	2023 年 8 月 21 日(火) 10：40～11：40	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回模試結果から強化対象者の選出と支援について ・低学年対策について ・保健師対策について ・既卒生の情報共有
4	2023 年 10 月 11 日(水) 16：30～17：50	<ul style="list-style-type: none"> ・必修模試結果と支援について ・低学年対策について ・保健師対策について
5	2023 年 11 月 13 日(月) 16：20～18：00	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回模試結果から強化対象者の選出と支援について ・低学年対策について ・保健師対策について ・願書出願書類、役割について ・令和 6 年度予算計画について ・国家試験合格祈願について
6	2023 年 12 月 15 日(金) 16：30～17：50	<ul style="list-style-type: none"> ・メディカコンクール模試結果について ・低学年対策について ・保健師対策について ・合格祈願について ・受験票渡しについて ・令和 6 年度予算計画について
7	2024 年 1 月 6 日(土) (メール会議)	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回模試結果から強化対象者の選出と支援について ・令和 6 年度予算計画について

8	2024 年 1 月 19 日(金) 16 : 30～17 : 30	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回模試結果から強化対象者の選出と支援について ・受験票渡しについて ・自己採点会について ・低学年対策について ・令和 6 年度国家試験対策保護者会について
9	2024 年 2 月 13 日(火) 16 : 30～17 : 50	<ul style="list-style-type: none"> ・第 113 回看護師国家試験自己採点結果について ・第 110 回保健師国家試験自己採点結果について ・令和 6 年度東京アカデミーの計画及び日程について ・令和 6 年度国家試験対策保護者会について
10	2024 年 3 月 11 日(月) 16 : 30～17 : 50	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度東京アカデミーの計画及び日程について ・模擬試験について ・令和 6 年度国家試験対策保護者会について ・合格発表の対応について ・低学年対策について

4. 委員会総括

1) 国家試験サポートについて

国家試験に概要と対策について学生に対してガイダンスを行った。また保護者に対しては、概要と対策および国家試験に係る費用等の資料を郵送し、さらにガイダンス動画を HP に掲載した。

8 月の模擬試験の結果および GPA から、強化対策の対象者を選出し、計画的に学習に取り組むよう 303 教室を固定教室とした。領域ごとに過去問から小テストを作成し、毎日問題に取り組めるように実施した。しかし、途中から無断欠席や連絡が取れない学生があり、委員会で検討した学習計画通りに進められない状況であった。強化対策対象者は模擬試験ごとに選出し、過去問や模試に取り組めるよう支援した。強化対策対象者に、模擬試験の成績が上がらない学生が徐々に固定されてきたため委員会にて個別面談を行った。

前期は、卒業研究や統合実習等もあり、学習支援はゼミごとに対応した。後期は、東京アカデミーによる国家試験対策講座のカリキュラムに沿って受講した学習環境では、303 教室、404 教室、353 教室を予約し、その他ラーニングコモンズ、図書室、自主室で学習するよう配慮した。しかし、他講義で教室使用が重なり、固定した学習環境の提供ができなかった。学習状況を把握するため、教員のラウンドを行い、健康管理や激励をしたが 1 月からはほとんどが自宅学習となり、大学で学習する姿がみられず、個別に状況確認をして支援した。

保健師対策は、公衆衛生看護学領域の教員にて対策講義および、模擬試験結果から個別面談を行った。

2) 模擬試験について

看護師模国家試験擬試験は、東京アカデミー（必修模試、第 1～3 回）、メディカコンクール（第 3 回）を行った。さらに、希望者にはテコム（チャレンジテスト、第 3 回）を行った。

保健師国家試験模擬試験は、ほけもし（第 1～3 回）を行った。

5. 次年度の課題

上記の対策を実施した。結果、第 113 回看護師国家試験の現役生の合格率は、看護師 87.1%、第 110 回保健師国家試験 90.0%であった。看護師国家試験では、必修問題から 6 問が採点除外等の措置が行われるなど受験生にとって不安になる状況であった。また既卒生では、6 名受験し 3 名が合格であった。

引き続き強化対策対象者を中心に支援を行い、全員合格を目指すことを課題とする。

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-4 実習調整委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：中島真由美
- 2) 委員：森本喜代美、高島留美、花原恭子、村井博子、森野美由紀、佐伯興平

2. 所掌事項

- 1) 委員会運営に関する業務：各ワーキングに関する業務
 - ・ワーキング A：臨地実習要項の調整、実習施設管理者・指導者会議の企画運営
 - ・ワーキング B：実習オリエンテーション、実習ローテーション表作成、滋賀県看護学校協議会との調整
 - ・ワーキング C：地域統合実習要項及び報告書作成、予算、インシデント報告、新ユニフォームの検討

3. 委員会活動

回	年 月 日(曜日)	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	令和5年4月12日(水)	年間活動計画、定例委員会の決定と議事録書記担当、令和5年度領域別実習要項の印進捗確認、実習施設管理者・指導者会議の企画運営の確認と実習到達度と課題の様式について、地域統合実習について、2023年度・2024年度の実習ローテーション表の確認	7名
2	令和5年5月10日(水)	実習到達度と課題について、実習施設管理者・指導者会議の企画運営の確認、2023年度・2024年度実習ローテーション表(案)の確認、地域統合実習施設確認	7名
	令和5年6月7日(水)	実習施設管理者・指導者会議の実施	
3	令和5年6月14日(水)	実習施設管理者・指導者会議の振り返り、実習ローテーション表について、実習における感染対策、地域統合実習報告書の締切確認、新ユニフォームの検討について	7名
4	令和5年7月12日(水)	学生名入り2023年度実習ローテーション表の確認、地域統合実習の評価方法の確認、予算報告、新ユニフォームの検討	7名
5	令和5年9月6日(水)	共通要項の見直しのスケジュール確認、3年生臨地実習オリエンテーションの確認、2023年度確定版の実習ローテーション表の確認、新ユニフォーム検討	4名
	令和5年9月21日(木)	3年生への臨地実習オリエンテーションの開催	
6	令和5年10月6日(金)	次年度の実習施設管理者・指導者会議の講演テーマ検討、9月の臨地実習オリエンテーションの振り返り、次年度共通要項の見直し、新ユニフォームの教員アンケート結果確認	6名
7	令和5年11月10日(金)	2024年聖泉大学実習施設管理者・指導者会(案)検討、共通要項(案)の検討、各領域実習要項(案)の準備依頼、2024年度ローテーション表について看護学校協議会との連携結果確認、地域統合実習要項の見直し、臨地実習の状況の共有	6名
8	令和5年12月15日(金)	2024年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議(案)、2025年度実習ローテーション表(案)確認、2024年度予算(案)、臨地実習の状況の共有	5名

9	令和6年2月1日(木)	臨地実習要項原稿の提出状況確認、2024年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議（案）の検討、臨地実習状況の共有、委員会規定の見直し	5名
10	令和6年3月1日(金)	2023年度活動の振り返りと次年度への課題整理、委員会年次報告（案）の確認	3名

4. 委員会総括

昨年度に引き続き委員を継続した委員が多く、各ワーキングの活動により運営はスムーズに進んだ。実習施設管理者・指導者会では、講師を招いて講演会を開催することができ、会議は盛況に終わることができた。全学FD・SD委員会の共催としたことから、学内全体で取り組むことができた。また、今年度はコロナ後の実習における感染症対策について意見交換と見直しを行った。

実習ローテーション表は11期生の学生数が例年よりも少ないためグループ数を15グループから14グループに減らし再編した。2024年度のローテーション表(案)では、他校との重複が複数見られたため、該当領域と調整した。2024年度入学生より学生定数が90名になることと、13期生が90名を超えていることから、2025年度の領域別実習ではグループ数を16としたローテーション表(案)を作成した。共通要項の見直しでは、全領域で見直しをもらえるように要項案を各領域へ印刷配布し、また、感染症対策の頁は保健室に見直しを依頼した。地域統合実習報告書は昨年度に引き続きPDFによる提出とした。また、学生の新しい実習用ユニフォーム（白衣）と実習用靴の検討を行い、次年度入学生より新ユニフォームとなる予定である。

新型コロナウイルス(COVID-19)による実習への大きな影響はみられなかったが、実習病棟に新型コロナウイルス(COVID-19)患者が入院していることがあり、学生の感染対策は引き続き十分にする必要があった。3年次領域別実習では様々な理由で実習を途中で欠席する学生が多く、きめ細かな学生への指導と各領域の連携、次年度への申し送りが必要である。

5. 今後の課題

- ・ 実習施設管理者・指導者会の実施にあたり、当日の進行内容の詳細を検討する。
- ・ 実習におけるインシデント・アクシデント防止のための情報共有や、効果的な実習オリエンテーションの在り方を見直しを行う。
- ・ 新カリキュラムでの地域統合実習の時期・方法の確認、検討が必要である。
- ・ 実習要項用USBの紛失があり、印刷依頼の方法に検討が必要である。

以上、上記の問題点を確認し、次年度の実習調整委員会の役割について取り組む課題として確認した。

2-5 FD委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：西山ゆかり
- 2) 委員：古川智恵、花原恭子、川端愛野

2. 所掌事項

- 1) 委員会運営に関する業務
- 2) FD委員会の本年度の計画・実施

3. 委員会活動

(委員会日程)

回	年/月/日(曜日)	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	2023年5月23日(月)	第1回 委員会開催 本年度の年間活動:学部中心とする ・全学FD委員会からの報告 ・公開授業について ・学修会について ・外部講師の招聘について ・予算について ・委員会の役割分担について	4名
2	2023年6月13日(火)	第2回 委員会開催 ・全学FD・SD委員会からの報告 ・TPの研修について ・開授業に関する役割分担について ・学習会に関する役割分担について ・9月にルーブリック研修会(案)について	3名
3	2023年6月28日(火)	・7月5日(水)の看護学部TP研修会について ・当日の準備と役割についての確認 ・FD研修「発達障害の可能性のある学生への理解と支援について」のアンケート結果報告(花原)	3名
4	2023年7月5日(水)	・新任者のティーチングポートフォリオ研修会(花原・西山・川端)	10名
5	2023年8月23日(火)	全学SD・FD研修会:PTの公開について研修(講師:北川先生 遠隔での講演)	
6	2023年10月10日(火)	第4回 委員会開催 ・人間学部、看護学部合同公開授業について、参観方法、参加後の提出物、授業担当者の役割を検討した(川端)。 ・学習会:12月以降の学習会開催について、テーマおよび日程についての検討をした。	3名
7	2023年12月27日(水)	第5回 委員会の開催 ・授業参観を終えての結果・評価(川端) ・学習会「ルーブリック作成」(西山) ・スケジュールと講師の検討 講師依頼(西山) ・開催方法遠隔での講義とすること ・令和5年度 看護学部FD予算について	3名
8	2024年2月1日(木) メール会議	・講師:愛知県立大学 大貫守先生との打ち合わせ(研修目的、内容、方法等の詳細を検討する) ・ルーブリックの基本的な考え方および	4名

9	2024 年 2 月 7 日 (水) メール会議	・企画書および回議書の作成(西山) ・ループリック学習会:当日の役割分担	3 名
10	2024 年 2 月 22 日 (木) Zoom 開催	第 1 回ループリック研修会の開催 ・ループリックの背景と基本的な考え方 ・ディプロマ・ポリシーの達成度を測定するためのループリックの活用について(4 年間の学生の成長の評価:長期的ループリックの作成) 参加者:看護学部・人間学部・助産別科・事務	25 名
11	2024 年 3 月 21 日 (木) Zoom 開催	第 2 回ループリック研修会の開催 ・ループリックの作成方法の基礎について 参加者:看護学部・人間学部・助産別科・事務	23 名
12	2024 年 3 月 27 日	2023 年度の活動報告と総括 今後の課題	3 名

4. 委員会総括

1) 公開授業

今年度は、全学教務委員会からの依頼を受けて、両学部合同公開授業を実施した。目的は、他学部および看護学部の他の領域の授業参観を行うことで自分自身の授業改善のために新たな授業等の知見を得ることとした。授業参観の方法として、後期 10 月～1 月の授業期間に、自身の関心のある講義を参観することとした（看護学部はどの科目でも参観可、人間学部は哲学と発達心理学の 2 科目）。看護学部の教員は学部の講義に必ず 1 回は参加することとし、事前に科目担当者にメールで予約をすることとした。結果専任教 15 名の参加があった。内訳は、看護学部の授業参加：8 名、人間学部授業参加：7 名であった。今年度は、公開時期を約 3 か月設けて案内を頻回に行ったが、昨年に比べて参加する教員が少なかった。人間学部の授業公開に参加する教員が半数いたことは、目的を達成でき良かったと考える。今後は、実習中であり参加せずの教員が 5 名、参加に対して無回答が 8 名と多かったため、すべての教員が公開授業に参加できるように配慮する必要がある。

2) ティーチングポートフォリオ学習会

学習会の目的は、今年度着任した教員への TP 作成のための支援である。過去 2 回の作成の動画の視聴と、作成するためのペアワークを中心としておこない、8 月の第 3 回目の研修にスムーズに参加できるように行った。

3) ループリック作成の学習会

大学の理念からディプロマ・ポリシーに照らし合わせて授業設計を行うに当たって、学修者とともに可視化された評価方法であるループリックの基礎から学ぶことを目的とした研修であった。特に大学 4 年間の長期的な学生の自己成長の過程を支援するためのループリックの作成について、教育学部の先生に講師をお願いした。今後は、看護系の先生に、より具体的に DP から各科目につながるループリックの作成ができるように支援をしていく必要があると考える。全 2 回の研修会参加は、看護学部での主催であったが、人間学部・助産別科・教学に関する事務の方々にも興味をもって参加をしていただけた。参加者の理解度については、概ね理解できたという結果であった。

4) 今後の課題

次年度からは看護学部 FD 委員会が、全学の FD/SD 委員会に吸収されるため、大学としてカリキュラム、教育理念、目標から個人及び組織が大学の方向性などを含め、同じ目標に進むための、組織的・継続的な教育改革・発展に繋がる活動を発展させていく。

委員会活動の一年間の活動を振り返り、自己点検評価を行い委員会として機能していることを確認した。

2-6 学術誌編集委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：古川智恵
- 2) 委員：平田美紀、安田千寿、石井薫、中谷三佳、後藤直樹

2. 所掌事項

- 1) 学術誌の編集と出版
- 2) その他、学術誌に関すること

3. 委員会活動

回	年月日（曜日）	議題（テーマ）・内容	備考
1	4月12日(水)	1. 委員会規定について 2. 年間計画について 1) 学術誌作成スケジュール 2) 委員会開催日について 3) テーマの締切日と申請方法について 3. 投稿規定について 4. 執筆要領について 5. 役割について 6. 英文抄録について	
2	9月21日(木)	1. 2023年度 ジャーナルの投稿状況について 2. 英文校正の学習会について 3. 査読の流れについて 4. 依頼文について（査読者宛） 5. 城ヶ端初子先生への追悼のコメントを掲載について	オンライン投稿を併用したため、会議の回数を見直した。
3	3月18日(月)	1. 製本の進捗状況について 2. 製本配布について 3. 次年度の課題について 1) 投稿規定 2) 執筆要領 3) 英文校正 4) COI 申告書 5) 著作権移譲承諾書 6) 問い合わせ先のアドレス 7) HP 8) チェックリスト 4. 査読者の選定について	

4. 委員会総括

今年度も、例年通り 3 月下旬の製本完成を目指して年間スケジュールに従って業務を遂行し、3 月 28 日に発刊することができた。

投稿者は、主に本学教員と大学院生修了者であるが、学外からの投稿者への対応として HP を活用して案内を行った。

本年度の申請数は 13 件で、内訳は、原著 5 件、資料 5 件、その他 3 件であった。原著は、それぞれ 2 名の学外者に査読を依頼した。資料およびその他は、学内の教員に査読を依頼した。査読の結果、最終的に、取り下げ 3 件、原著 1 件、研究ノート 2 件、資料 4 件、その他 3 件となった。また、城ヶ端初子先生の追悼文を間副学長に依頼し、掲載することとなった。

今年度は、投稿者との連絡をオンラインで行ったため、作業がスムーズに行えた反面、変更の手続きの説明に時間を要した。今後、オンライン化を定着させるため、投稿者に理解を求める必要がある。

投稿の過程を通して、査読者や投稿者からのコメントを踏まえて、投稿規定、執筆要領、チェックリストを見直し、新たに著作権移譲承諾書、COI 申告書を作成した。

以上より、委員会活動の一年間の活動を振り返り、所掌事項とすりあわせ自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-7 広報委員会

1. 構成メンバー

委員長：森本喜代美

委員：小倉由紀子、小林菜穂子、馬場好恵、後藤則子、川端愛野、森野美由紀
中村美由紀（別科）、佐伯興平、岸田璃子、吉田猛、宮川華、今宿團（敬称略）

2. 所署事項

- 1) オープンキャンパス等の計画、実施に関すること
- 2) ホームページの企画・記事記載に関すること
- 3) 高大連携事業の運営に関すること
- 4) 高校訪問、看護学部の広報活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること

3. 委員会活動

	日時	協議事項
第1回	2023年4月5日	1. オープンキャンパスの日程（年間、5月） 2. 入学時アンケート 3. HP等掲載年間計画 4. 4月の高大連携（八幡高校） その他：委員会年間スケジュール、規定の確認等
第2回	2023年5月10日	1. 5月のオープンキャンパス 2. 新入生のアンケート結果 3. 学生広報委員会の募集と活動状況 4. 4月高大連携（八幡学校）のアンケートについて その他：県立高校生対象の大学連携講座、高校訪問について
第3回	2022年6月6日	1. オープンキャンパスについて（5月の振り返り、6月のスケジュール・8月の卒業生講話企画） 2. 在学生掲載のミニポスター作成について 3. 8月八幡高校との高大連携講座について（企画） その他：非入学者アンケート結果、高校教員対象説明会について
第4回	2022年7月5日	1. オープンキャンパスについて（6月の振り返り、7月のスケジュール、8月の卒業生講話依頼） 2. 8月以降のオープンキャンパスDXの企画 3. 次年度学生パンフレットについて 4. FM彦根ラジオ収録について 5. HP, Facebook記事の進捗状況 6. 8月の八幡高等学校との高大連携について（運営） 7. 八幡高校高大連携講座、年間計画について
第5回	2022年8月3日	1. オープンキャンパスについて（7月の振り返り、8月のスケジュール確認） 2. 後半のオープンキャンパス企画案について 3. 8月八幡高校高大連携講座について その他：高校訪問実施状況、オープンキャンパス参加者の年度別参加者推移について
第6回	2022年9月6日	1. オープンキャンパスについて（8・9月の振り返り、10月スケジュール） 2. 次年度大学パンフレットについて（企画・学生モデル選出） 3. 8月八幡高校高大連携講座振り返り・アンケート結果 その他：「みらい探究」講師派遣について
第7回	2022年10月16日	1. 10月オープンキャンパス振り返り 2. 学生パンフレットの進捗について 3. 10月の八幡高校との高大連携講座（セミナー）および評価会議報告 4. 12月の八幡高校との高大連携講座について（企画） その他：オープンキャンパス参加者の年度別参加者推移について
第8回	2022年11月9日	1. 大学パンフレットについて（スケジュール、学生モデル変更、追加） 2. 学生広報委員会報告（動画作成） 3. 11月八幡高校との高大連携講座（セミナー）報告 4. 12月の八幡高校との高大連携講座（運営）
第9回	2022年12月7日	1. 次年度オープンキャンパス実施予定について 2. 大学パンフレットの進捗について 3. HP、インスタグラム掲載状況と依頼 4. 12月の八幡高校との高大連携講座について確認 5. 3月の私立4高校講座の調整について

		6. 次年度予算について その他：次年度連携講座の実施要領変更について（滋賀県医療政策課から通知）
第10回	2023年1月16日	1. 次年度オープンキャンパスのスケジュール、企画について 2. 次年度オープンキャンパス看護体験テーマ提出について 3. 大学パンフレットの進捗状況 4. 学生広報委員会活動報告（動画完成） 5. 私立高等学校との連携講座について（日程確認）
第11回	2023年2月8日	1. 大学パンフレットの進捗報告 2. 3月オープンキャンパス 担当者の動きについて 3. 次年度OC看護体験テーマ、学部企画について 4. 私立高等学校との連携講座案について 5. 聖泉大学看護学部広報委員会規程について その他：次年度の入試広報に関する組織変更について
第12回	2024年3月25日	1. 3月オープンキャンパス振り返り 2. 次年度大学連携講座について 3. 私立高等学校との連携講座最終案について 4. 2023年度八幡高校高大連携スケジュール（4月8日確定） 5. 郭清広報委員会の学生発信コンテンツについて その他：各ワーキングの活動報告など

4. 委員会総括

1) オープンキャンパス等の計画、実施に関して

新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったが引き続き感染予防に留意しながら、オープンキャンパスの運営を行い、全予定を実施できた。入試個別相談においては、入試委員会、事務局と連携し円滑な運営ができた。今年度、5～7月の参加者が多く、早期の出願、入学決定を求める高校生が多い傾向にあったと考えられる。出願も年内入試への出願が多かったことから、次年度に向けて、8月上旬までの参加者対応の充実を図っていききたい。また、選ばれる大学に向けて、次年度も高校生にとって分かりやすく・資格取得など聖泉大学の特色をいかした活動を行っていく。加えて入学後のキャンパスライフをイメージできるように在学生との交流機会を確保していく。

2) ホームページの企画・記事記載に関すること

大学パンフレットやHPについては、全学広報委員会、アドミッション室と協働しながら、高校生が見たいと思うパンフレットを目指して取り組み、「学び」と「キャンパスライフ」を両面表紙にして作成、QRコードで動画視聴が可能な冊子を作成した。今後も適宜見直していく。

学生広報委員会は今年度、動画作成やメディアで情報発信を行った。引き続き学生の意見をヒアリングしながら運営していく。また、HP、Instagramの記事については、事務局と連携して大学全体で共通のフォーマットとして運用し、記事依頼をワーキングが担当することでタイムリーな記事が掲載できた。次年度に向けて記事を掲載する担当領域の周知徹底および学生発信コンテンツへの取り組みを図っていききたい。

3) 高大連携事業の運営に関すること

八幡高等学校との高大連携講座についても予定内容を実施し、高校との評価会議を行いながら、次年度も今年度の内容を継続した形で進めていくこととなっている。

私立高等学校と聖泉大学の連携講座では「看護体験」を「在学生との交流」とし、保護者の同伴参加も3名あった。今年度は3校の参加のみとなったが、次年度も継続して運営をしていく。

4) 高校訪問、看護学部の広報活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること

学生募集の重点高校への教員訪問、依頼を受けた高校への出張講義、ガイダンス等、アドミッション室と連携を図り効果的に実施できた。

その他、次年度全学広報委員会が入試・学生募集委員会に組織変更となることを受けて、学部広報委員会の規定の見直しを行った。

以上、委員会活動の1年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-8 キャリアアップセンター委員会・研究促進

2-8-1 キャリアアップセンター委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：西山ゆかり、森野美由紀、高島留美、後藤則子、岸本沙希、佐藤綾野、村上美潮

2. 所掌事項

- 1) キャリアアップセンター
 - ①講座ビギナーコース・アドバンスコースに関する事項
 - ②卒業生研修会に関する事項

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等	備考
1	令和5年4月17日（月） 16:30~17:20	1. キャリアアップ委員会の役割分担・活動計画について 2. ビギナーコース、アドバンスコース講座内容について 3. 卒業生研修会について	
2	令和5年5月10日（月） 9:15~10:00	1. ビギナーコース第1回についてスケジュール・役割確認 2. 卒業生研修会について	
3	令和5年5月26日（金） 15:50~16:30	ビギナーコース第1回開催 （9:15~16:00） 1. 講座の振り返り 2. 第2回の役割分担、必要物品の購入手配等	参加者 18名
4	令和5年6月13日（火） 17:00~18:00	1. ビギナーコース第2回についてスケジュール・役割確認 2. アドバンスコース決定通知の発送作業 3. 卒業生研修会について	
5	令和5年6月23日（金） 16:30~17:00	ビギナーコース第2回開催 （9:30~16:00） 1. 第2回講座の振り返り 2. 第3回講座のタイムスケジュールについて	参加者 18名
6	令和5年7月12日（水） 13:15~14:15	1. ビギナーコース第2回講座のアンケート結果報告 2. ビギナーコース第3回についてスケジュール・役割確認 3. 卒業生研修会について	
7	令和5年7月21日（金） 16:00~16:30	ビギナーコース第3回開催 （9:30~16:00） 1. 第3回講座の振り返り 2. 個別研究サポートの役割分担 3. 卒業生研修会の案内文郵送について	参加者 17名
8	令和5年8月8日（月） 10:40~12:10	1. ビギナーコース第4回についてスケジュール・役割確認 2. 個別研究サポートの領域配分、教員への依頼について 3. アドバンスコースについて スケジュール・役割確認 4. 卒業生研修会案内文郵送について	
9	令和5年8月25日（金） 10:40~12:10	ビギナーコース第4回開催 （9:30~16:00） 1. 第4回個別研究サポートの振り返り 2. アドバンスコースの役割分担、物品の購入手配等	参加者 17名

10	令和5年9月1日（金） 16:00～16:30	アドバンスコース開催 （9:30～16:00） 1. 講座の振り返り 2. 令和4年度活動報告書作成の役割分担の確認	参加者8名
11	令和5年11月2日（木） 9:30～10:30	1. 卒業生研修会について 2. 令和5年度の活動報告書について	
12	令和5年11月11日（土） 11:00～12:30	卒業生研修会 「触れて癒す て・あーて（TE-ARTE）」川嶋みどり氏	参加者75名
13	令和5年11月12日（日） メール会議	1. 卒業生研修会の振り返り	
14	令和5年12月19日（木） 9:30～10:30	1. 卒業生研修会について 2. 令和6年度予算案について 3. 令和6年度キャリアアップ講座日程について 4. 令和5年度の活動報告書について	
15	令和6年3月6日（水） 13:30～14:30	1. 令和6年度キャリアアップ講座案内の発送（124施設）	
16	令和6年3月25日（月） 回覧確認	1. 令和5年度の活動報告書の内容確認	

4. 委員会総括

キャリアアップ講座では前年度に引き続き、ビギナーコースは看護研究の方法から研究相談までを4回の開催とアドバンスコースは基礎的な統計について1回開講した。講座の案内は、前年度の3月上旬に発送しており、応募期間内にビギナーコースは18名、アドバンスコースは8名の応募があった。講座は、地域・精神・在宅看護学実習室、母性・小児看護学実習室、コンピューター室を利用した。ビギナーコースの第4回で行った個別研究相談では、8領域の教員が2～4名を担当した。受講者のアンケートでは満足度は高く、具体的に研究方法を学ぶことができたという意見が多かった。

研究相談では、3施設から申し込みがあり、うち1施設はキャリアアップ講座の個別相談から引き継ぎの依頼であった。いずれも、院内看護研究発表会にての発表へ成果があった。共同研究の申し込みはなかったため、研究相談の研究など共同研究が行えないか施設へ相談していく。

卒業生研修会は「触れて癒す て・あーて（TE-ARTE）」をテーマに、川嶋みどり氏の講演を行った。感染症の状況に応じて、対面あるいはオンラインなど事前に調整が必要であったが、本学へお越しいただき対面での研修会を開催することができた。案内については卒業生8期生・9期生の就職した施設へ案内チラシを発送した。また9期生へは、委員会のLINEアカウントを設定したことで情報提供ができた。また本学学生や臨床看護師、大学院修了生の参加も呼びかけ、参加者は75名であった。

委員会活動の1年間の活動を振り返り所掌事項とすり合わせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-8 キャリアアップセンター委員会・研究促進

2-8-2 研究促進

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：西山ゆかり、森野美由紀、高島留美、後藤則子、岸本沙希、佐藤綾野、村上美潮 研究促進委員会（キャリアアップセンター兼務）

2. 所掌事項

- 1) 看護学部研究助成費の募集と選考準備
- 2) 科学研究費獲得のための学習会
- 3) 看護学部研究助成費報告会の開催

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等	備考
1	令和5年4月17日（月） 16：30～17：20	1. 2023年度看護学部研究助成費の応募者について 2. 全学研究推進委員会の発足と協力について	
2	令和5年5月10日（月） 9：15～10：00	1. 2023年度看護学部研究助成費の応募者について 4件の応募があったことの報告 2. 全学研究推進委員会の発足と協力について	
3	令和5年6月13日（火） 17：00～18：00	1. 全学研究推進委員会による学習会のサポートについて	
4	令和5年7月5日（水） 15：00～16：30	1. 2023年度研究促進委員会主催科学研究費獲得のための学習会の開催 全学研究推進委員会の運営にあたり会場設営、資料準備・配布の協力を担った	参加者 23名
5	令和5年7月12日（水） 13：15～14：15	1. 看護研究フォーラムの役割について	
6	令和5年9月14日（木） メール会議	1. 看護研究フォーラムの示説演題の募集について	
7	令和5年9月19日（火） メール会議	1. 看護研究フォーラムの役割について 2. 看護研究フォーラムの会場設定について	
8	令和5年9月22日（金） 13：00～14：30	1. 看護研究フォーラム 口演：4演題 示説：22演題	

4. 委員会総括

2023 年度看護学部研究助成費の応募案内を行ったところ 4 名の申し込みがあった。審査結果については看護学部教授会にて報告し、2 名が採択となった。研究倫理審査を経て研究に取りかかるよう通知した。また、研究経費については総務課と共に用途、手続き等について説明した。研究成果は 2024 年度の研究フォーラムでの報告としている。2022 年度助成費にて取り組んだ 2 名は、2023 年度の看護研究フォーラムで成果を報告した。

看護研究フォーラムでは、助成費を受けた 2 名に加えて、2 名の教員が取り組んだ研究報告を行った。当日の座長は、委員会から 2 名を選出し対応した。また、示説会場を 2 会場（地域精神在宅実習室・母性小児実習室）設営し、ポスター掲示の協力を呼び掛けたところ 22 演題の協力があつた。ポスター掲示のパーテーションは 12 枚使用した。

全学研究推進委員会が発足となり、前年度看護学部で開催した科研費獲得に向けた学習会を全学で行うこととなった。したがって、本委員会は会場設営、資料準備等の協力を担うこととなった。学習会の参加者は 23 名であった。次年度も全学で開催される企画には、依頼があれば協力することとなる。

委員会活動の 1 年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2023 年度
聖泉大学人間学部
年次報告書

学部教員・委員会

学部教員活動

【2023年4月～2024年3月】

(以下、学部のメンバーの氏名は下線で示してある)

1. 教育活動

唐楽寧 教授

前期：日本語 A、日本語 C、上級日本語総合 A、実用中国語 A (週 2)、実用中国語 (看護)
会計実務、マーケティング、経営学概論、ジョブメソッド、キャリアデザイン B、プロジェクト演習 B、専門演習 B、卒業研究 I 副査

後期：日本語 B、日本語 D、上級日本語総合 B、実用中国語 B (週 2)、経済学、ジョブメソッド、キャリアデザイン B、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 B-秋入、専門演習 B、専門演習 B-秋入、卒業研究 II 副査

李艶 教授

担当科目

前期

「心理学概論 A」「産業・組織心理学」「リスク・危機管理心理学」
「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 C」「卒業研究 I」
「社会心理学」(大学院)

後期

「社会・集団・家族心理学」「異文化間心理学」「消費者心理学」
「専門演習 B」「専門演習 D」「プロジェクト演習 B」「プロジェクト演習 D」「卒業研究 II」
「家族論」(人間学部、看護学部)

鈴木雅洋 准教授

[担当科目]

心理学研究法 A/心理学研究法、心理学統計法、心理学基礎演習 I、心理学基礎演習 II、心理学実験、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学、プロジェクト演習 A、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 C、プロジェクト演習 D、専門演習 A、専門演習 B、専門演習 C、専門演習 D、卒業研究 I、卒業研究 II、キャリアデザイン B

富川拓 准教授

【担当科目】

キャリアデザイン B

基礎ゼミ C、基礎ゼミ D

専門演習 A、専門演習 B、専門演習 C、専門演習 D

プロジェクト演習 A、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 C、プロジェクト演習 D
卒業研究 I、卒業研究 II

社会学概論、ボランティア論、地域社会学、ジェンダー論、家族論、近江での SDGs の実践

多胡陽介 准教授

2年：「基礎ゼミ C・D」「キャリアデザイン B」「健康管理学」「発育・発達と老化」
「運動プログラムの理論と実際」「健康運動実習 A (ジョギング・ウォーキング)」

3年：「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」「スポーツバイオメカニクス」
「体力測定論」

4年：「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 I・II」

小澤克彦 講師

1年：「情報処理演習」「アカデミックライティング A」「情報処理入門」

「アカデミックライティング B」「応用情報処理演習」「統計学」「基礎ゼミ」

3年：「専門演習 A」「専門演習 B」「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 B」
「ジョブメソッド」

4年：「専門演習 C」「専門演習 D」「プロジェクト演習 B」「プロジェクト演習 D」
「卒業研究 I」「卒業研究 II」

森雄二郎 講師

【担当科目】

(1年次)

キャリアデザイン A (前半のみ) / 対人コミュニケーション論 / 基礎ゼミ A

(2年次)

滋賀論 / キャリアデザイン B (公務員コース) (前半のみ)

(3年次)

専門演習 A / プロジェクト演習 A / ジョブメソッド (前半のみ)

(4年次)

専門演習 C / プロジェクト演習 C / 卒業研究 I

池田龍也 講師

1年：「心理学概論」「心理学概論 B」「発達心理学」

2年：「感情・人格心理学」「心理的アセスメント I」「心理学基礎演習 I」「小児看護論」

3年：「心理的アセスメント II」「人体の構造と機能及び疾病」「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」「地域看護論」

4年：「心理演習」「心理実習」「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業論文」

I]「卒業論文Ⅱ」

別科：「ヘルス・コミュニケーション学」

木村大樹 講師

2年：「心理学研究法 B」

3年：「教育・学校心理学」「心理的アセスメントⅡ」「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」

4年：「心理演習」「心理実習」「精神疾患とその治療」「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」

別科：「母性の心理・社会学」「ヘルス・コミュニケーション学」

山堀貴彦 助教

授業担当科目

前期：「基礎ゼミ A」「キャリアデザイン B」「スポーツ実技 A」「トレーニング演習 B」「健康運動実習 C」「コーチング論」「フィットネス・トレッキング演習」「看護学部スポーツ実技 A（2クラス）」「看護学部スポーツ実技 C」：

後期：「基礎ゼミ B」「キャリアデザイン B」「スポーツ実技 B」「トレーニング演習 A」「健康科学演習（トレーニング）」「トレーニングプログラム作成演習」「健康管理学」「看護学部スポーツ実技 B（2クラス）」

部活動

男子ホッケー部の監督として部員22名の指導を行なった。（年間 200 日活動）

【試合結果】

関西学生春季ホッケーリーグ 5位

関西学生秋季ホッケーリーグ 7位

全日本大学ホッケー王座決定戦 1回戦出場

全日本学生ホッケー選手権大会 2回戦出場

山口隆介 講師

1年：「現代文化論」「アカデミックライティング A」（再履修クラス）「アカデミックライティング B」（再履修クラス）「哲学」「世界史」

2年：「基礎ゼミ C」「基礎ゼミ D」「キャリアデザイン B」

3年：「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」

4年：「専門演習 C・D」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」「プロジェクト演習 C・D」

2. 研究活動

李艶 教授

【論文】

1. 「大学生の心理についての研究 (1) - 大学生の恋愛不安 - 」
聖泉論叢 No30 P.1-16
2. 「大学生の心理についての研究 (2)
- 限定商品を選ぶ大学生のパーソナリティ特性 - 」
聖泉論叢 No30 P.17-34

【学会発表】

1. 「大学生の同調行動に関する研究 コロナ禍における感染対策の動機・行動への影響」
日本心理学会第 87 回大会
2023 年 9 月 16 日 発表論文 ID: 2 D056PM
2. 「大学生の親和欲求及び刺激欲求と SNS 依存の関係ーコロナ禍の状況におけるー」
日本教育心理学会 6 5 回総会
2023 年 8 月 10 日～9 月 10 日 発表論文 ID : PC013

【2023 国際シンポジウム】

(オンライン形式) 共同発表 :

「文化心理学視点からコロナ禍による社会意識の変化を考えるー分断発生のメカニズムを
探る」 2023 年 9 月

【公益法人日本心理学会 「文化と心理学研究会」活動】

公益法人日本心理学会の「文化と心理学研究会」の代表として、13 年間にわたって研究
活動の運営・企画を行った。

2023 年度は災害後の成長をテーマとして取り上げ、共同研究を行った。その成果は国際シ
ンポジウムにて共同発表を行った。

【公益法人日本心理学会 国際委員会 活動】

公益法人日本心理学会 国際委員会委員として、国際的活動に参加し、越境している人々
を研究視野に入れ、国際的研究・支援活動を提言し、活動している。

多胡陽介 准教授

- ・学会参加 (日本体育・スポーツ・健康学会、日本コーチング学会)

小澤克彦 講師

・【論文】

小学校プログラミング教育の必修化に向けて 学習指導要領の分析
聖泉論叢 増刊号

池田龍也 講師

・競争的資金

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「ACE を背景にもつ難治性うつ病の発達経路の検討とその簡易スクリーニング法の現場実装」(研究代表者：田辺 肇，研究分担者：井上 猛，戸田裕之，長峯正典，池田龍也)

木村大樹 講師

【学会活動】

日本パーソナリティ心理学会 編集委員

山口隆介 講師

(研究ノート) すべて単著

山口隆介 (2024) 「トマス・アキナス「心臓の鼓動について」」『聖泉論叢』31号

山口隆介 (2024) 「ヨセフス・グレット『アリストテレス・トマス哲学綱要』序論の翻訳」『聖泉論叢』31号

3. 地域貢献

唐楽寧 教授

彦根市日中友好協会理事・副会長

彦根市企業立地審査会委員 (2023年1月1日～2025年12月31日)

国立病院機構東近江総合医療センター地域支援病院運営委員会委員 (2023年5月～2025年4月)

李艶 教授

○ 地域活動

① 京都市 外国人労働者のメンタルヘルスの相談 (ボランティア活動)
(2023年8月～9月)

② 大津市 国際交流イベントの参加 (2023年4、10月計2回)

③ 京都市 市観光協会 観光者を迎えることについて (2023年9月 オンライン)

多胡陽介 准教授

委員等

- ① 滋賀県彦根市 湖東定住自立圏共生ビジョン KPI 外部評価 委員
- ② 滋賀県彦根市 運動推進委員会 委員
- ③ 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会 副会長
- ④ 環びわ湖大学・地域コンソーシアム
2023 年度大学地域連携課題解決支援事業選考委員会委員

講師等

2023 年 6 月 8 日 旭森地区公民館 講師「体力測定と介護予防運動で健康知識を身につけよう ～いずみ体操をみんなで～」

小澤克彦 講師

生活困窮家庭を対象とした学習支援活動

毎週月曜日、19 時～21 時、彦根市中地区公民館

木村大樹 講師

聖泉大学カウンセリングセンターにて相談員として心理臨床面接を実施している

講師『コミュニケーションスキルを習得しよう！』（滋賀県看護協会研修，滋賀県看護協会研修センター2023 年 7 月 11 日）

講師『夢から探る深層心理』（滋賀県教育委員会高大連携講座，聖泉大学 2023 年 7 月 28 日）

山口隆介 講師

「地域の魅力発見」プロジェクトにて彦根市内の地蔵および地蔵盆について調査。

報告書を完成し、彦根市役所文化財課に提出。今後、地蔵盆の調査地域自治体や調査協力者、その他県内図書館に提出予定。

委員会活動
(2023年4月～2024年3月)

2-1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：多胡陽介、富川拓、木村大樹、北川慎吾、山川直美、伊藤茂賢

2. 所掌事項

- 1) 教育事務に関わる業務
 - ・カリキュラムに関わる業務
 - ・時間割作成・授業担当者決定に関わる業務
 - ・履修登録に関わる業務
 - ・授業に関わる業務
 - ・試験に関わる業務
 - ・成績評価・単位認定に関わる業務
 - ・進級に関わる業務
 - ・卒業研究に関わる業務
 - ・卒業判定に関わる業務
- 2) 学籍に関わる業務
- 3) 学年暦に関わる業務
- 4) 科目等履修生・聴講生・研究生に関わる業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会 (4/19) 業務確認をし、審議に臨んだ 審議：卒業研究要項、後期時間割 協議：令和5年度スケジュールについて
5月	第2回委員会 (5/9) 審議：後期時間割、非常勤依頼 協議：目標設定 報告：AAの保護者ポータルについて共有 第3回委員会 (5/30) 審議：定期試験要項 協議：防災論の先取履修について
6月	第4回委員会 (6/27) 審議：次年度開講科目案

	協議：Grow-Up week の開催
7月	第5回委員会（7/25） 審議：2+2 カリキュラム、研究生・科目等履修生・聴講生募集要項 協議：2023 年度後期ガイダンス資料
8月	第6回委員会（8/29） 審議：学籍異動 協議：特任教員雇用希望の法人に対する申し入れ
9月	第7回教務委員会（9/26） 審議：学籍異動、2023 年度秋入学生単位読替案 報告：公認心理師関係の特任教員採用要請とその回答
10月	第8回委員会（10/31） 審議：次年度非常勤講師依頼、次年度ゼミ負担均分化について 協議：R6 不開講科目の検討
11月	第9回委員会（11/14） 協議：心理学基礎演習 I 再履修について 第10回委員会（11/28） 協議：健康運動実践指導者の資格関連授業、プログテスト
12月	第11回委員会（12/26） 協議：来年度専門演習選択、卒業研究Ⅱ再履修クラス
1月	第12回委員会（1/30） 審議：学籍異動 協議：シラバスチェック 報告：中期計画進捗状況
2月	第13回委員会（2/27） 審議：卒業判定 協議：2024 年度前期ガイダンス・履修指導
3月	第14回委員会（3/12） 審議：進級判定 協議：専門演習 D・プロジェクト演習 D 再履修クラス

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行った。役割の適正な分担に課題があることを確認した。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：森雄二郎
- 2) 委員：小澤克彦、池田龍也、木村大樹

2. 所掌事項

- 1) 学生生活に関わる業務
 - ・学生の自主活動(課外活動・ボランティア等)に関わる業務
 - ・学生の自治に関わる業務
 - ・学生の団体(クラブ・同好会等)に関わる業務
 - ・学生の健康に関わる業務
 - ・学生の安全にかかわる業務
- 2) 奨学金（外部）にかかわる業務
- 3) 学長表彰・学長奨励表彰にかかわる業務

3. 委員会活動

例年通り上記業務に係る諸活動が行われた。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-3 進路支援委員会

1. 構成メンバー

委員長：多胡陽介、委員：山堀貴彦、秋山茂也、那須由美子

2. 所掌事項

学生の進路支援に関わる業務、資格取得・検定試験合格等の支援に係る業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会 (4/18) 議事：令和5年度の役割分担、入学前課題の活用、外部団体による学生相談
5月	第2回委員会 (6/13) 議事：今後の4回生に対する支援について、3回生への支援について、滋賀労働委員会の出前授業について、進路支援室の活用について等
6月	第3回委員会 (7/11) 議事：4回生面談の進捗状況と今後の支援について
7月	第4回 (9/5) 議事：4回生および3回生の今後の支援について、4回生の就職活動状況について、8月9日(水)しがジョブフェアの報告等
10月	第5回 (10/25) 議事：4回生および3回生の今後の支援について、4回生の就職活動状況について、後期のジョブメソッドスケジュール等
11月	第6回 (11/21) 議事：4年生への就職支援と就職率向上について、3年生への支援について、令和6年度進路支援委員会予算に向けて等
12月	第7回 (12/19) 議事：4回生への就職支援について、3回生の面談分担について、令和6年度進路支援委員会予算案について、2024年度学生便覧について等
1月	第8回委員会 (1/16) 議事：4回生への就職活動状況・就職支援について、3回生への就職支援について、令和6年度進路関係図書の選出について、ハローワーク彦根の出張相談について
2月	第9回委員会 (2/22) 議事：3回生への進路支援について、今年度の総括について、4回生への進路支援について、キャリアデザインBとジョブメソッドの予定について等
3月	第10回委員会 (3/21) 議事：今年度の総括について、3回生への進路支援について、キャリアデザインBとジョブメソッドの予定について等

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-4 FD委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：李艶
- 2) 委員：小澤克彦

2. 所掌事項

ファカルティ・ディヴェロップメント(教育機能の向上)に関わる業務

- ・研修会に関わる業務
- ・授業アンケートに関わる業務
- ・教育力を高めるための共通意識形成に関わる業務

3. 委員会活動

FD委員会主導の下で、学生の学修状況を踏まえた教授法の工夫・開発に取り組んだ。特にポートフォリオの作成に関して、人間学部では、事前課題に取り組む機会を作りました。8月9日全学のFD・SD研修会に7名の教員は参加した。学部内と全学の研修会を踏まえて、各自の教育理念、教育方法、教育成果を振り返るとともに他の教員の手法を学び、教育活動に対する今後の短期・長期の目標を設定した。

学部FD活動の一環として、自らの授業改善の参考にするとともに、意見交換を通じてお互いの教育手法や学生とのかかわりなどをみなすため、教員相互に授業参観することを実施した。授業参観を実施する前に公開授業希望調査を行った。取り組みは授業参観を終えた後、参観した教員は特に参考にしたいと思ったこと、参観しての感想や意見、質問などを【サクスシート】記入して、授業担当者およびFD委員に提出した。教員間の授業に関する交流ができた。

後期授業アンケートの実施を行った。例年の回答率が低いことを改善するため、アンケートの呼びかけの結果、回答率が上がった。教員間では、学生からのアンケート結果を踏まえて、今後の授業改善につながると認識している。全国のFD研修を積極的に参加した。学部の教員は第29回FDフォーラムシンポジウム「DX・AI時代の高等教育のゆくえ」に参加し、他大学のFDの取り組みについて勉強した。

中間アンケートの実施を試みた。次年度は本格的に実施する。

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以上

2-5 広報委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：多胡陽介
- 2) 委員：唐楽寧、池田龍也、吉田猛、今宿團、宮川華

2. 所掌事項

- 1) 大学広報に関わる業務
 - ・学部の活動に関わる広報
 - ・教員の活動に関わる広報
 - ・学生募集に関わる広報
- 2) オープンキャンパスに関わる業務

3. 委員会活動

例年通り上記業務に係る諸活動が行われた。

また、人間学部の閉学部に伴い、本年度途中を以て広報委員会は活動を終了した。

4. 総括

【最終総括】委員会活動の2023年度中の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-6 入試委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：機密性が高いので秘匿。
- 2) 委員：機密性が高いので秘匿。

2. 所掌事項

入試に係る業務

3. 委員会活動

定例委員会を行った。機密性が高いのでスケジュール等詳細は秘匿。

また、人間学部の閉学部に伴い、本年度途中を以て入試委員会は活動を終了した。

4. 総括

委員会活動の2023年度中の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以上

2-7 紀要委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：池田龍也

2. 所掌事項

『聖泉論叢』に関わる業務

- ・『聖泉論叢』発行に関わる業務
- ・『聖泉論叢』頒布に関わる業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会（4/11）本年度スケジュールと役割分担を審議、確定。
5月	5月12日 『聖泉論叢』増刊2号 原稿回収完了 第2回委員会（5/12） 業務状況確認。
6月	第3回委員会（メール審議 6/30-7/4）業務状況確認。
7月	7/28 紀要投稿希望者調査終了
8月	第4回委員会（メール審議 8/7-8/10）投稿希望調査結果報告。投稿希望者全員に執筆依頼。
10月	第5回委員会（メール審議 10/6-10/11）発刊スケジュールにおいて増刊と定期刊の入れ替えを論じるが、年度をまたぐのは現成を考えると難しいと判断
11月	11/3 『聖泉論叢』原稿回収。
12月	聖泉論叢発行に向けての作業
1月	聖泉論叢発行に向けての作業
2月	聖泉論叢発行に向けての作業
3月	『聖泉論叢』31号、『聖泉論叢』増刊2号発行 『聖泉論叢』31号頒布、『聖泉論叢』増刊2号を期間リポジトリに掲載

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以上

2-8 スポーツ・身体運動支援センター

1. 構成メンバー

- 1) センター長：多胡准教授
- 2) メンバー：山越講師、山堀助教

2. 所掌事項

- (1) 学生の課外のスポーツ活動を支援するための事業
- (2) 地域スポーツ活動の振興に寄与するための事業
- (3) スポーツ振興のための研究・調査に関する事業
- (4) その他、センターの目的達成のために必要な事業

3. センター活動

例年通り上記業務に係る諸活動が行われた。

また、本年度途中を以て全学の組織に移行した。

4. 総括

センター活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-9 公認心理師委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：李艶
- 2) 委員：池田龍也 木村大樹 鈴木雅洋 山口隆介

2. 所掌事項

聖泉大学人間学部における公認心理師の養成に係る業務

3. 委員会活動

- ・ 新生生に対する公認心理師ガイダンス実施について
- ・ 実習施設の受け入れや実習指導者の変更などについて
- ・ 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟の加入について
- ・ 公養連第5回総会の参加
- ・ 心理演習の受講について
- ・ 公認心理師関連科目のうち物品および秘密を取り扱う科目における返還誓約書および秘密保持誓約書について
- ・ 公認心理師試験卒業証明書・科目履修証明書（単位の読替）について
- ・ 心理演習・心理実習の要件緩和について
- ・ 心理実習に関する手続きについて
- ・ 2023年度心理実習に係る年間計画について
- ・ 2023年度院試対策について
- ・ 「心理的アセスメントⅠ」の事前学習会の開催案
- ・ 「心理実習」の履修要件の緩和案
- ・ 令和6年度への業務の引継ぎ

厳しい運営環境の中で、公認心理師委員会は公認心理師を目指す学生への指導・支援ができ、委員会として機能していた。次年度、さらなる厳しい状況に直面することは間違いないが、資格を目指す学生への指導・支援は継続していく。